

2025年度第1四半期 決算説明資料

2025年7月31日

旭化成株式会社

業績に関する補足の詳細データは、

「Financial Factbook」として当社WEBサイトに掲載しています

<https://www.asahi-kasei.com/jp/ir/library/finance/xlsx/2506-factbook.xlsx>

AsahiKASEI

Creating for Tomorrow

2025年度 第1四半期実績

営業利益 (のれん償却前営業利益)	親会社株主に帰属する 四半期純利益
537 億円 前年同期比 +7.6%	197 億円 前年同期比 ▲42.2%
(617 億円 +6.7%)	

2025年度 上期予想

営業利益 (のれん償却前営業利益)	親会社株主に帰属する 中間純利益
1,050 億円 前年同期比 ▲3.6%	610 億円 前年同期比 +1.2%
(1,210 億円 ▲2.9%)	

2025年度 第1四半期実績

- 営業利益は前年同期比で増益。エッセンシャルケミカル事業の定期修理や在庫受払差によるマイナス影響等があった「マテリアル」は減益となった一方、医薬事業の大幅な利益成長が寄与した「ヘルスケア」、国内住宅事業が堅調に推移した「住宅」において増益
- 四半期純利益は、「マテリアル」におけるMMA等の事業撤退に伴う損失を計上したこと等により、前年同期比で減益

2025年度 上期予想

- 営業利益、中間純利益ともに第1四半期の進捗を踏まえて、**前回予想比（5月発表）からは上方修正**。特に、医薬・ライフサイエンス事業が前回予想を大きく上回る進捗
- 営業利益は前年同期比で減益を見込むが、中間純利益は第2四半期において特別損益等の改善を見込むことから、**増益を見込む**

株主還元

- 2025年度の間配当は20円を予想（前年同期比で2円増配、前回予想から変更なし）

米国関税政策等の主な影響・リスクと対応策のアップデート

- 各事業の米国拠点における調達コスト上昇の影響については、関税影響前に備蓄した在庫の活用、製品への価格転嫁、調達先の変更等、影響の抑制に努めることで、現時点では軽微と想定（2025年5月発表時点から変更なし）
- 世界経済の停滞や、サプライヤーによる関税分の価格転嫁等に伴う各事業の需要減少リスクについては、2025年度第1四半期時点では顕著な影響は見られていない。第2四半期以降の需要への影響については、今後の市場動向を注視していく

セグメント	第2四半期以降における主な影響・リスクと対応策
ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none">ライフサイエンス事業の米国拠点にて、一部の製品・部材等を米国外から調達しているが、価格転嫁等により影響の抑制に努めるクリティカルケア事業の米国拠点にて、一部の部材を米国外から調達しているが、部材の備蓄在庫の活用や製品への価格転嫁等により影響の抑制に努める
住宅	<ul style="list-style-type: none">北米事業において、米国拠点では一部資材を米国外から調達しているが、価格転嫁等により影響の抑制に努める国内外ともに、世界景気の停滞やサプライヤーが関税分を価格転嫁すること等を背景とした、消費者の購買意欲の低下によるリスクが想定される
マテリアル	<ul style="list-style-type: none">カーインテリア事業の米国拠点にて、一部資材を米国外から調達しているが、価格転嫁等により影響の抑制に努める世界の景気停滞やサプライヤーが関税分を価格転嫁すること等を背景とした、自動車市場関連等の各事業の需要減少、石化市況の低下リスクが想定される

中期経営計画における直近の取り組み

- 「戦略的育成」事業では、将来の成長に向けた投資や顧客との取り組みが着実に進捗
- 「収益改善・事業モデル転換」事業では、5月にMMA等の事業撤退を決定し、「マテリアル」における構造転換を加速

成長投資

戦略的育成

ライフサイエンス

- ウイルス除去フィルター「プラノバ」の新紡糸工場建設
(7月29日発表)

構造転換

収益改善・事業モデル転換

エッセンシャルケミカル

- MMA、CHMA、アクリル樹脂、SBラテックスの事業撤退
およびアセトニトリルの供給体制再構築 (5月27日発表)

顧客との 取り組み

戦略的育成

エネルギー&インフラ

- 豊田通商とリチウムイオン電池用湿式セパレータ「ハイポア」の
キャパシティライト契約を締結 (7月31日発表)

戦略的育成

エネルギー&インフラ

- フィンランドの水素プロジェクトよりコンテナ型アルカリ水電解システム
「Aqualyzer-C3」を受注 (7月30日発表)

事業ポートフォリオ変革の進捗状況（1）

前中期経営計画から「成長投資」と「構造転換」の両輪による事業ポートフォリオ変革を推進

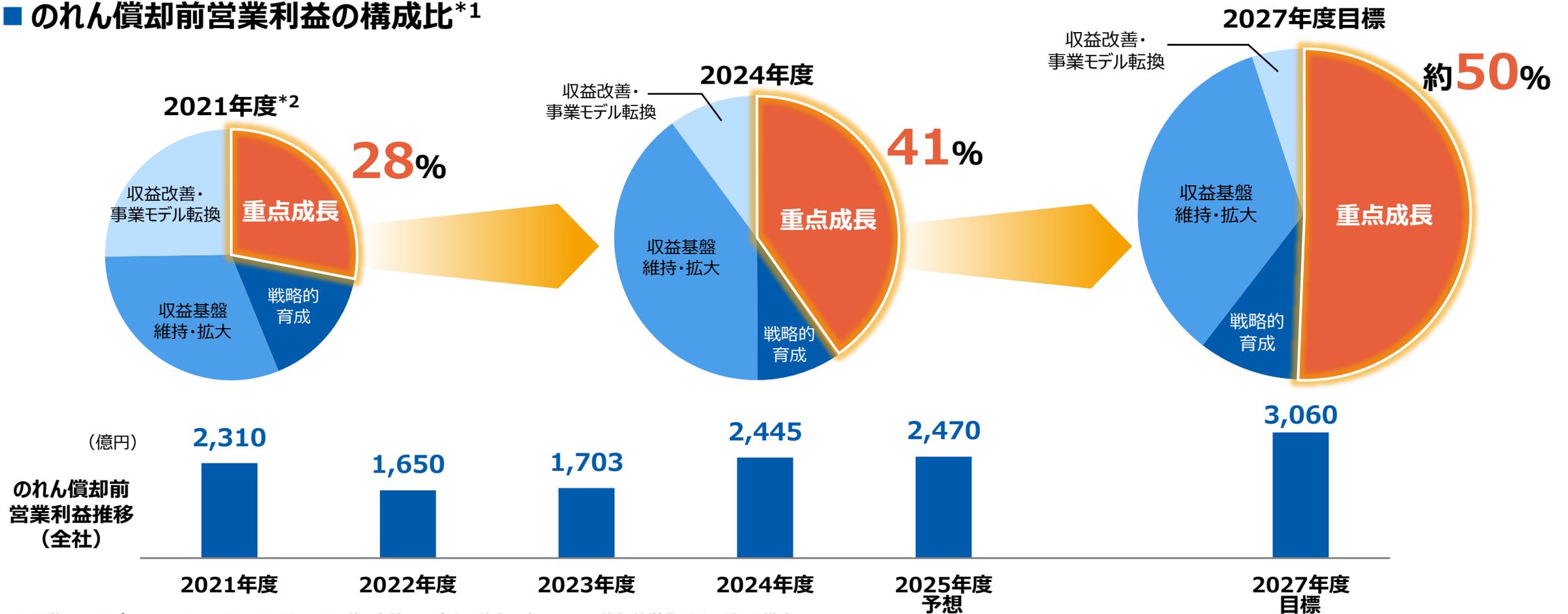
	(年度) 2022	2023	2024	2025
		前中期経営計画2024 ~Be a Trailblazer~		現中計2027 ~Trailblaze Together~
成長投資	 ライフサイエンス Bionova（バイオCDMO事業）買収	 海外住宅 Focus（ネバダ州）買収	 医薬 Calliditas買収	 ライフサイエンス プラノバの新紡糸工場建設
	 エレクトロニクス パイメル（半導体保護膜／層間絶縁膜）の能力増強	 エネルギー&インフラ LIB用湿式セパレータの米国・日本での塗工設備増強	 海外住宅 ODC（フロリダ州）買収	 エネルギー&インフラ LIB用湿式セパレータの北米における一貫工場の建設
構造転換		 ライフサイエンス セパセル事業の構造転換	 医薬 診断薬事業の譲渡	
	 エレクトロニクス ペリクル事業の譲渡	 建材 ALC岩国工場閉鎖	 ライフサイエンス 血液浄化事業の譲渡	 エッセンシャルケミカル PTT Asahi Chemicalにおけるアクリロニトリル等の事業撤退

*上記の年度は意思決定の年度

事業ポートフォリオ変革の進捗状況（2）

- 前中計期間（2022～2024年度）では、医薬事業、クリティカルケア事業、エレクトロニクス事業等が成長軌道に回帰したことにより、「重点成長」事業の利益構成比が拡大
- 現中計期間（2025～2027年度）では、これまでの投資の成果を結実させ、「重点成長」事業を中心に利益成長を更に加速させる

■ のれん償却前営業利益の構成比*1



*1 記載しているパーセンテージは、マテリアル共通、その他、全社又は消去の数字を除いたのれん償却前営業利益に対する構成比

*2 2021年度の実績については、参考情報として現在の開示区分に簡便的に組み替えて表示している

2025年度以降の各事業の開示区分と位置付け

- 2025年度より、各セグメント内のサブセグメントを再編（詳細は次ページ参照）
- 「重点成長」、「戦略的育成」への投資継続、利益成長の実現と並行して、「収益改善・事業モデル転換」の改革を進める

	ヘルスケア	住宅	マテリアル
重点成長 <ul style="list-style-type: none"> 過去投資からの利益創出 非連続成長も含めた積極投資 	 医薬  クリティカルケア	 海外住宅	 エレクトロニクス
戦略的育成 <ul style="list-style-type: none"> 将来の成長ドライバー 競争力強化の観点での提携戦略推進 	 ライフサイエンス	 不動産開発	 エネルギー&インフラ
収益基盤維持・拡大 <ul style="list-style-type: none"> 安定収益創出 拡大機会は資本効率を強く意識した上で判断 		 建築請負、リフォーム 賃貸管理・不動産流通	 カーインテリア
 収益改善・事業モデル転換 <ul style="list-style-type: none"> 収益/資本効率低迷する事業の構造転換 無形資産を活用した新しい事業モデルへのシフト 		 建材	 コンフォートライフ
			 パフォーマンスケミカル  エッセンシャルケミカル

開示区分の変更

【2025年度からの開示区分】

セグメント	サブセグメント	主な事業
ヘルスケア	医薬・ライフサイエンス	医薬（国内・海外） ライフサイエンス（ウイルス除去フィルター・CDMO他）
	クリティカルケア	ACT（除細動器・AED他） CMS（着用型自動除細動器「LifeVest」他） 睡眠時無呼吸症診断・治療デバイス
住宅	住宅	建築請負（戸建・集合） 不動産開発（分譲マンション）*1 賃貸管理・不動産流通*1 リフォーム 海外住宅（北米・豪州）
	建材	断熱材 ALC（軽量気泡コンクリート）
マテリアル*2	エレクトロニクス	電子材料 電子部品
	カーインテリア	自動車内装材
	エナジー&インフラ	セパレータ イオン交換膜 中空糸膜（マイクロザ）
	コンフォートライフ	高機能マテリアル（添加剤他） 繊維 消費財（サランラップ他）
	パフォーマンスケミカル	エンジニアリング樹脂 機能性コーティング
	エッセンシャルケミカル	基盤マテリアル（石化関連事業） エラストマー
その他		
消去又は全社*2		

【旧区分】

サブセグメント
医薬・医療 クリティカルケア
住宅 建材
ライフイノベーション （デジタルソリューション） モビリティ&インダストリアル
環境ソリューション
ライフイノベーション
モビリティ&インダストリアル
環境ソリューション

（注記）

本ページ以降、
2024年度の実績に関して<組替後>と表示している
箇所では、2025年度からの開示区分の変更を遡って
反映した数値を記載している

また、2025年度より以下の内容も変更となるため、
併せて組替えに反映している

*1 住宅事業の「不動産部門」について、従来「開発事業」と
賃貸・仲介事業」として売上高の内訳を開示してきたが、今後は「
不動産開発事業」と「賃貸管理・不動産流通事業」として、売上
高と営業利益の内訳を開示する
なお、従来「開発事業」に含まれたマンション管理事業は、「賃貸
管理・不動産流通事業」に移管する

*2 従来「消去又は全社」に含まれていたコーポレートの研究開
発、DX関連の機能の一部を、「マテリアル」へ移管

事業ポートフォリオ変革の加速や収益力向上等により、持続的な企業価値向上を目指す

企業価値向上に向けた施策

事業ポートフォリオ変革加速

- 「ヘルスケア」等の重点成長事業への投資の刈り取りを着実に実行するとともに、「マテリアル」においてROICがWACCを継続的に下回る低資本効率の事業の構造転換を加速

収益力向上

- 全社横断コスト削減活動に加え、適切な値上げや汎用品削減などによる収益改善を徹底

投資マネジメント強化

- 成長投資において、ハードルレート等の運用を強化して投資判断を高度化。投資後のモニタリングやフォローも徹底

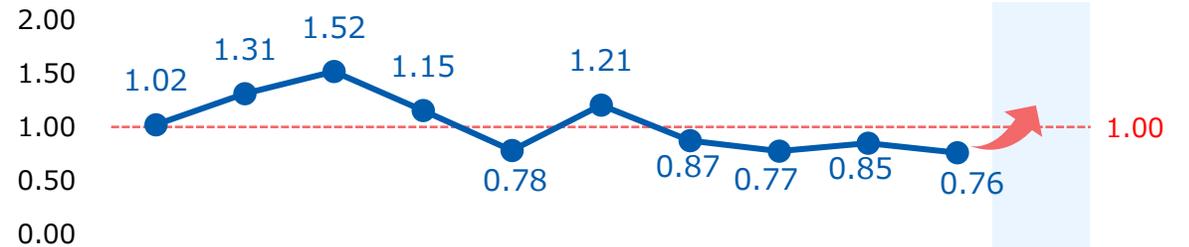
資本構成の最適化

- 資本水準適正化の視点での株主還元強化や、継続的な政策保有株式の縮減（過去5年で保有銘柄数を約70%、1,500億円超縮減）

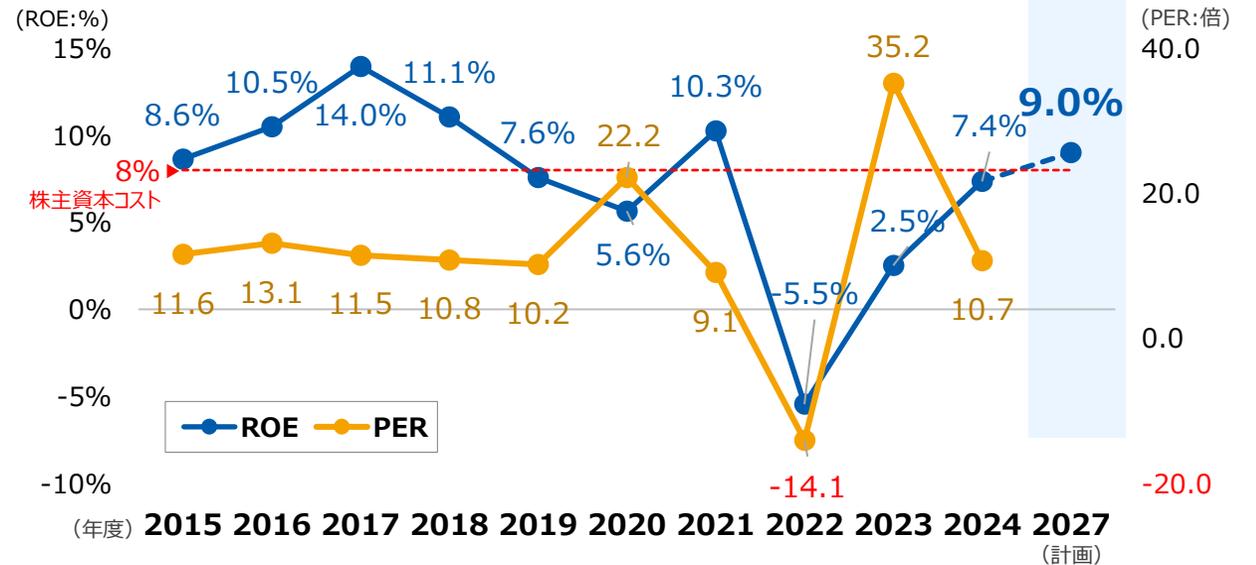
資本コスト低減

- M&Aや大型投資の戦略や経営基盤強化の取り組みなどの開示、投資家との対話を継続的に拡充

PBR（株価純資産倍率）*1



ROE・PER（株価収益率）*1



*1 PBR、PERにおける株価は各年度末の終値を前提としている

1. 2025年度第1四半期実績

2025年度第1四半期実績（連結）

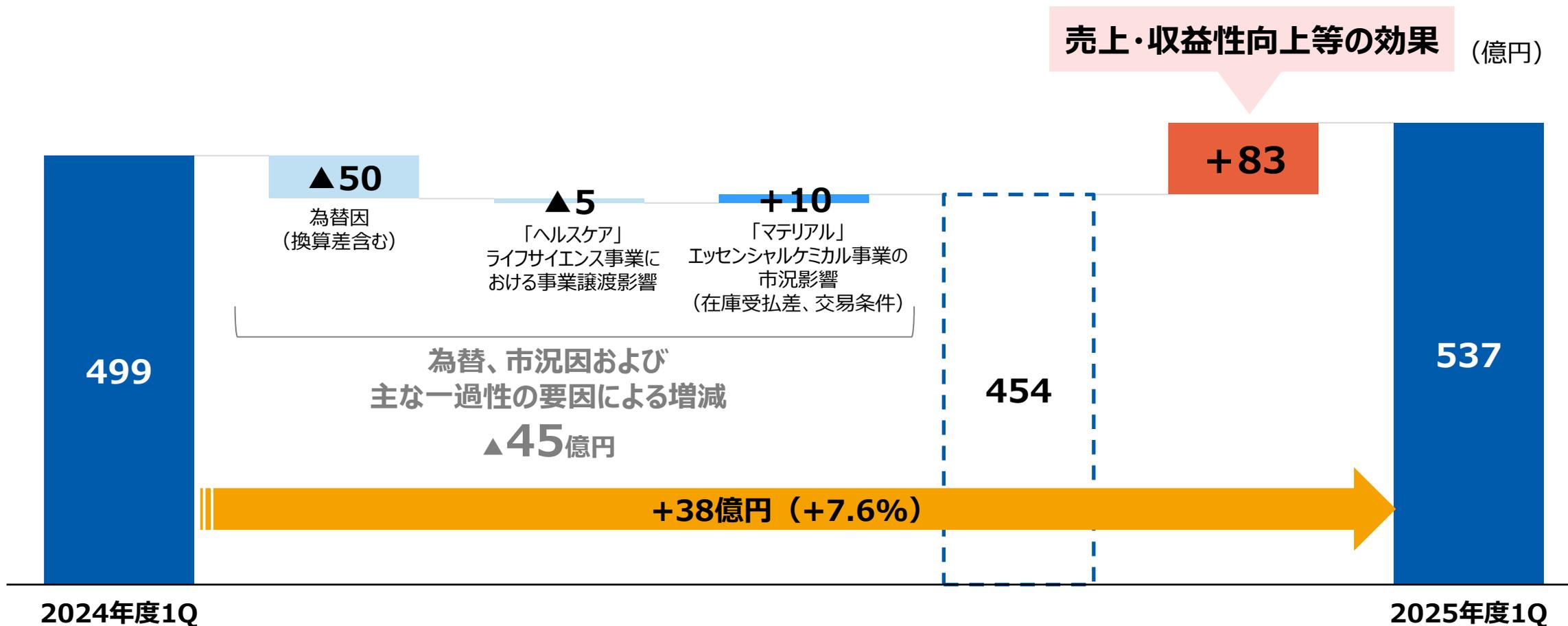
- 売上高は7,383億円、前年同期比で24億円（+0.3%）の増収
- 営業利益は537億円、前年同期比で38億円（+7.6%）の増益
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は197億円、前年同期比で144億円（▲42.2%）の減益

		2024年度1Q	2025年度1Q	前年同期比	
				増減額	増減率
売上高	(億円)	7,359	7,383	24	+0.3%
営業利益	(億円)	499	537	38	+7.6%
	売上高営業利益率	6.8%	7.3%	+0.5%	
のれん償却前営業利益	(億円)	578	617	39	+6.7%
EBITDA ^{*1}	(億円)	941	1,009	68	+7.2%
	売上高EBITDA率	12.8%	13.7%	+0.9%	
親会社株主に帰属する四半期純利益	(億円)	341	197	-144	-42.2%
為替・ナフサ前提					
	平均為替レート (USD)	156円	145円		
	平均為替レート (ユーロ)	168円	164円		
	国産ナフサ価格	79,000円/kl	66,300円/kl		

*1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費（有形、無形、のれん）

営業利益増減要因

- 為替、市況因等の前提変化および一過性のマイナス影響を除く実力ベースでは、前年同期比で83億円の増益
- 特に「重点成長」事業である医薬事業において、2024年10月に連結したCalliditasの業績貢献もあり大幅に利益が伸長



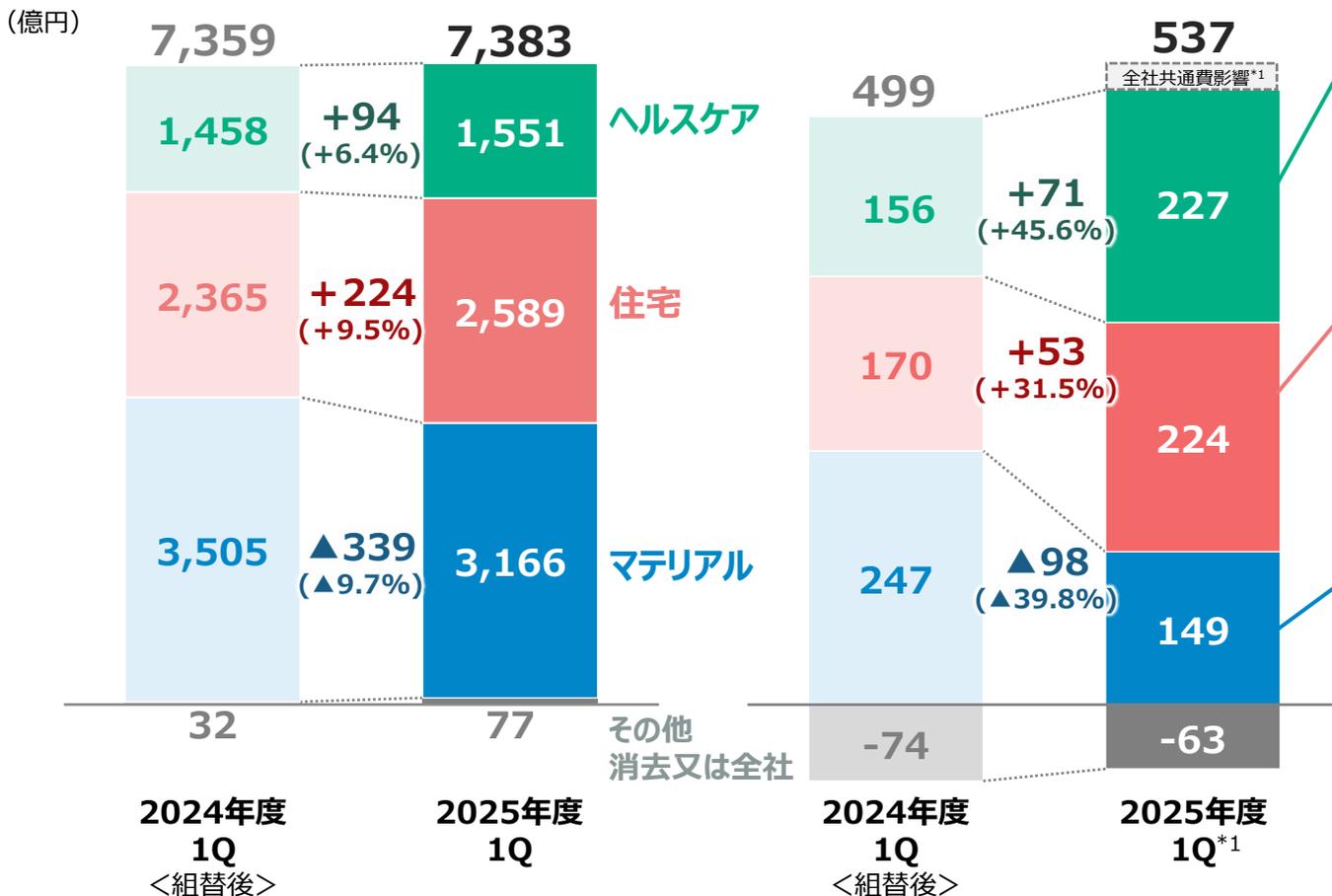
2025年度第1四半期実績（セグメント別）

売上高 前年同期比

+24億円 (+0.3%)

営業利益 前年同期比

+38億円 (+7.6%)



■ 営業利益の主な増減要因

ヘルスケア	+71億円
医薬・ライフサイエンス事業における主力製品の販売量増加やCalliditasの新規連結等に伴い、増益	
医薬・ライフサイエンス事業	+88億円
クリティカルケア事業	▲17億円
住宅	+53億円
建築請負事業の平均単価上昇や、不動産開発事業の販売戸数増加により、増益	
住宅事業	+45億円
建材事業	+8億円
マテリアル	▲98億円
円高影響に加え、エッセンシャルケミカル事業の定期修理や在庫受払差によるマイナス影響等により、減益	
エレクトロニクス事業	▲5億円
カーインテリア事業	▲8億円
エナジー&インフラ事業	▲11億円
コンフォートライフ事業	▲16億円
パフォーマンスケミカル事業	▲33億円
エッセンシャルケミカル事業	▲44億円

*1 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更している。詳細は36ページ参照

営業外・特別損益、法人税等

- | 営業外損益は、支払利息増加等による金融収支の悪化や為替差損の計上により悪化
- | 特別損益は、「ヘルスケア」の事業譲渡に伴う売却益計上の一方、「マテリアル」におけるMMA等の事業撤退に伴う損失等により悪化
- | 法人税等は、税前利益の減少に加え、「ヘルスケア」の事業譲渡に伴う税金費用の軽減があり、減少

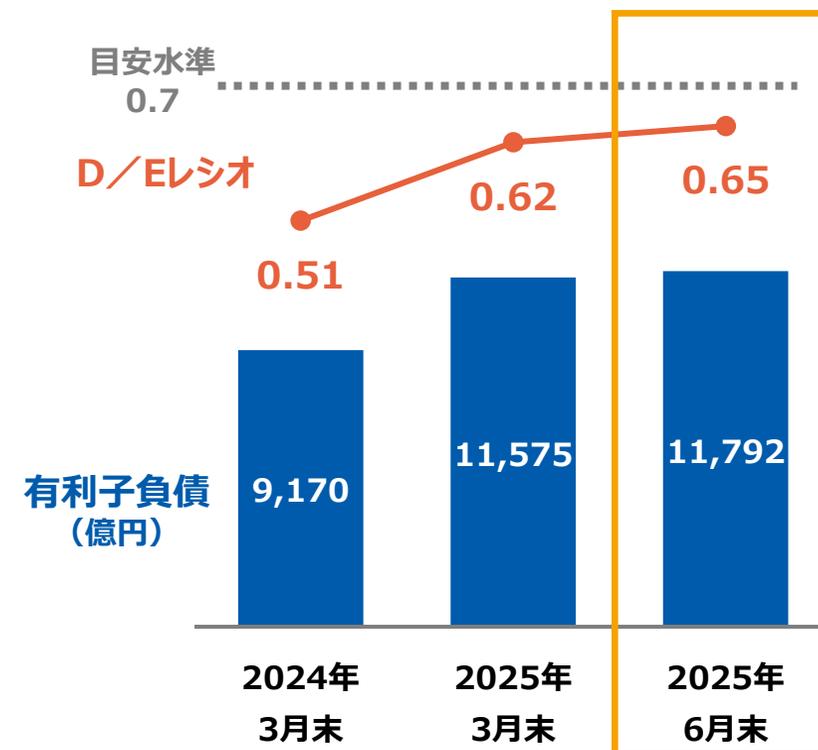
(億円)

	2024年度1Q	2025年度1Q	増減額
営業外損益	38	-37	-75
投資有価証券売却益	58	4	-55
固定資産売却益	2	1	-1
受取保険金	12	-	-12
受取和解金	-	43	43
関係会社株式売却益	-	75	75
特別利益	73	122	50
投資有価証券評価損	6	-	-6
固定資産処分損	16	16	0
減損損失	3	8	5
製品補償損失	18	-	-18
電力契約解約に伴う損失	-	42	42
事業構造改善費用	74	299	225
特別損失	116	364	248
特別損益	-43	-242	-199
法人税等	144	47	-97

- 「ヘルスケア」における事業譲渡の影響に加え、円高に伴う海外子会社の資産減少等により、総資産が515億円減少
- 有利子負債の増加に加え、円高に伴いその他包括利益累計額が減少したが、D/Eレシオは目安水準以下で推移

			(億円)	
	2025/6月末	2025/3末比 増減額	2025/6月末	2025/3末比 増減額
流動資産	17,519	-176	負債	20,858
現金及び預金	3,840	-95	仕入債務	1,737
売上債権	4,709	-205	有利子負債*1	11,792
棚卸資産	7,256	63	その他	7,329
その他	1,714	61	純資産	18,780
固定資産	22,119	-339	自己資本	18,223
有形固定資産	9,113	-93	株主資本	13,585
のれん	3,721	-176	その他の包括利益累計額	4,638
その他の無形固定資産	5,238	-171	非支配株主持分	557
投資有価証券	1,822	138		
その他	2,226	-37		
資産合計	39,638	-515	負債純資産合計	39,638

有利子負債、D/Eレシオ



*1 リース債務除く

キャッシュ・フローの状況

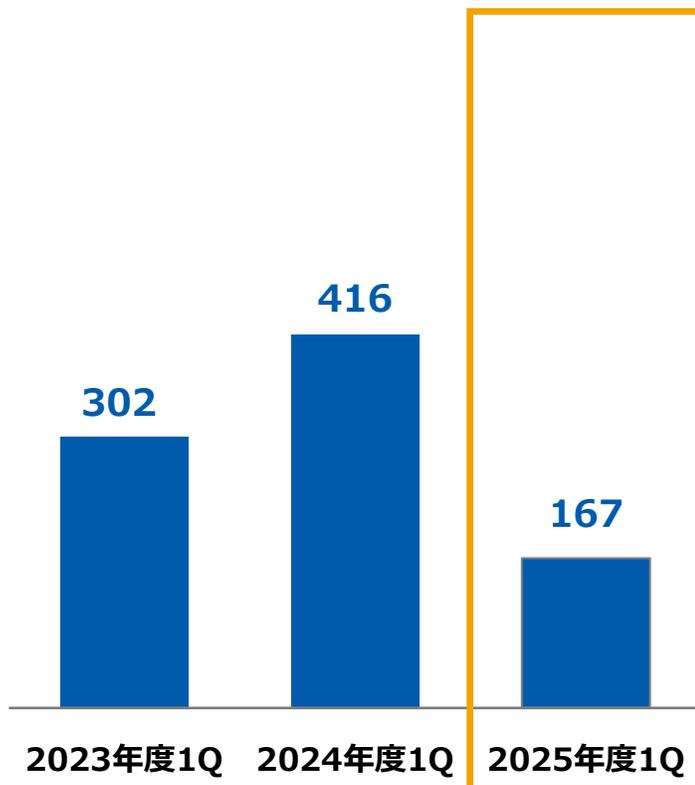
営業CF

法人税の支払額が増加したことに加え、「住宅」の不動産開発事業における棚卸資産増加等に伴う運転資本の増加により、キャッシュ・インが減少

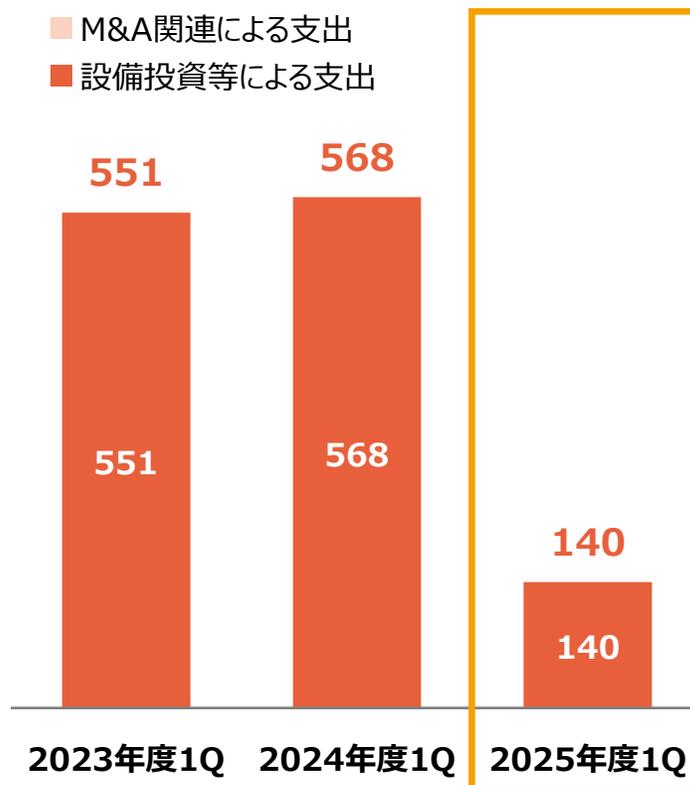
投資CF

「ヘルスケア」の事業譲渡に伴う子会社株式売却収入の計上に加え、Calliditas買収に向けた株式買付けを行っていた前年同期からは支出が減少したことにより、キャッシュ・アウトが減少

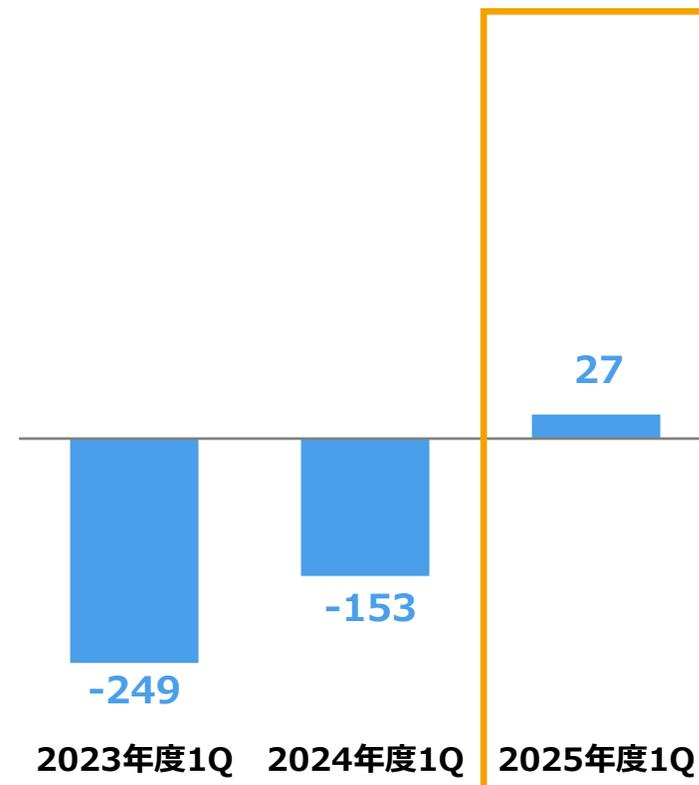
■ 営業CF (キャッシュ・イン)



■ 投資CF (キャッシュ・アウト)



■ FCF (キャッシュ・イン) (億円)



2. 2025年度上期予想

2025年度上期予想（連結）

- 売上高は1兆5,040億円、前年同期比で137億円（+0.9%）の増収。前回予想（2025年5月発表）並み
- 営業利益は1,050億円、前年同期比で39億円（▲3.6%）の減益。前回予想から上方修正
- 親会社株主に帰属する中間純利益は610億円、前年同期比で8億円（+1.2%）の増益。前回予想から上方修正

		2024年度		2024年度 上期	2025年度		2025年度 上期予想	上期 前年同期比		2025年度 上期前回予想 (2025年5月発表)	増減
		1Q	2Q		1Q	2Q予想		増減額	増減率		
売上高	(億円)	7,359	7,544	14,903	7,383	7,657	15,040	137	+0.9%	15,120	-0.5%
営業利益	(億円)	499	590	1,089	537	513	1,050	-39	-3.6%	950	+10.5%
売上高営業利益率		6.8%	7.8%	7.3%	7.3%	6.7%	7.0%	-0.3%		6.3%	+0.7%
のれん償却前営業利益	(億円)	578	668	1,246	617	593	1,210	-36	-2.9%	1,110	+9.0%
EBITDA ^{*1}	(億円)	941	1,033	1,975	1,009	1,011	2,020	45	+2.3%	1,920	+5.2%
売上高EBITDA率		12.8%	13.7%	13.3%	13.7%	13.2%	13.4%	+0.2%		12.7%	+0.7%
親会社株主に帰属する中間純利益	(億円)	341	262	602	197	413	610	8	+1.2%	420	+45.2%
EPS	(円)			43.46			44.92	1.45	+3.3%	30.47	+47.4%
のれん償却前EPS	(円)			54.80			56.70	1.89	+3.5%	42.08	+34.7%
為替・ナフサ前提											
平均為替レート (USD/円)		156円	149円	153円	145円	145円	145円			140円	
平均為替レート (ユーロ/円)		168円	164円	166円	164円	170円	167円			160円	
国産ナフサ価格		79,000円/kl	76,900円/kl	78,000円/kl	66,300円/kl	63,000円/kl	64,700円/kl			55,000円/kl	

*1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費（有形、無形、のれん）

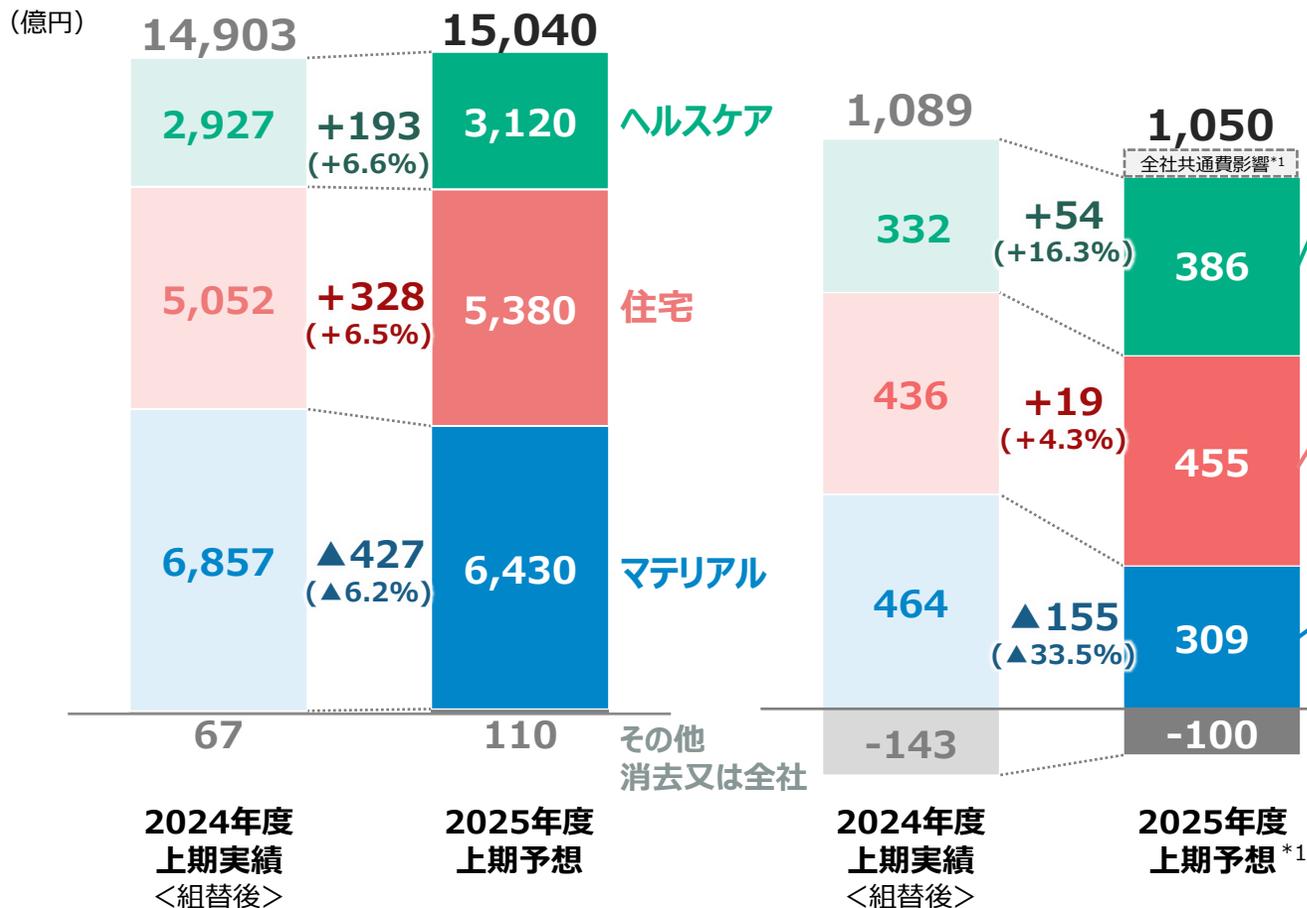
2025年度上期予想（セグメント別：前年同期比）

売上高 前年同期比

+137億円 (+0.9%)

営業利益 前年同期比

▲39億円 (▲3.6%)



■ 営業利益の主な増減要因

ヘルスケア

+54億円

医薬・ライフサイエンス事業において事業譲渡影響はあるが、主力製品の販売量増加やCalliditasの新規連結等に伴い、増益

医薬・ライフサイエンス事業

+74億円

クリティカルケア事業

▲20億円

住宅

+19億円

海外住宅事業が減益となるが、建築請負事業の平均単価上昇や建材事業の堅調な推移等により、増益

住宅事業

+9億円

建材事業

+10億円

マテリアル

▲155億円

円高影響に加え、エッセンシャルケミカル事業の定期修理や在庫受払差によるマイナス影響等により、減益

エレクトロニクス事業

▲8億円

カーインテリア事業

▲14億円

エナジー&インフラ事業

+2億円

コンフォートライフ事業

▲35億円

パフォーマンスケミカル事業

▲53億円

エッセンシャルケミカル事業

▲103億円

*1 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更している。詳細は36ページ参照

2025年度上期予想（セグメント別：前回（5月発表）予想比） AsahiKASEI

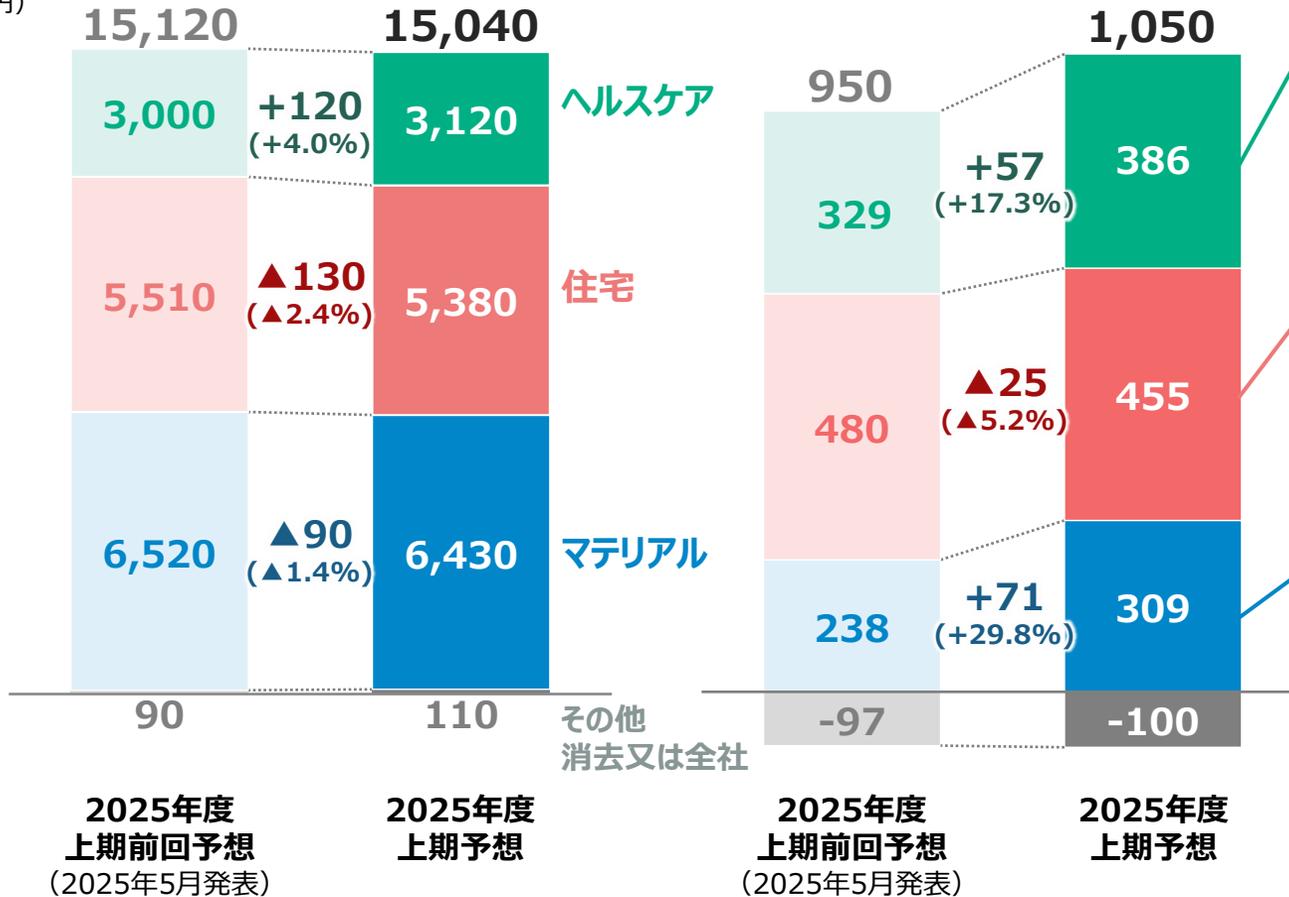
売上高 前回予想比

▲80億円（▲0.5%）

営業利益 前回予想比

+100億円（+10.5%）

（億円）



■ 営業利益の主な増減要因

ヘルスケア

+57億円

医薬・ライフサイエンス事業における主力製品の販売増や医薬事業における新規導入費用等、販管費の下期への一部期ずれ等に伴い、上方修正

医薬・ライフサイエンス事業

+75億円

クリティカルケア事業

▲18億円

住宅

▲25億円

海外住宅事業の需要回復が当初想定より遅れており、下方修正

住宅事業

▲30億円

建材事業

+5億円

マテリアル

+71億円

エレクトロニクス事業やカーインテリア事業を中心に販売が堅調に推移することや固定費の減少、前回予想時からの円安影響等により、上方修正

エレクトロニクス事業

+10億円

カーインテリア事業

+16億円

エナジー&インフラ事業

+17億円

コンフォートライフ事業

+1億円

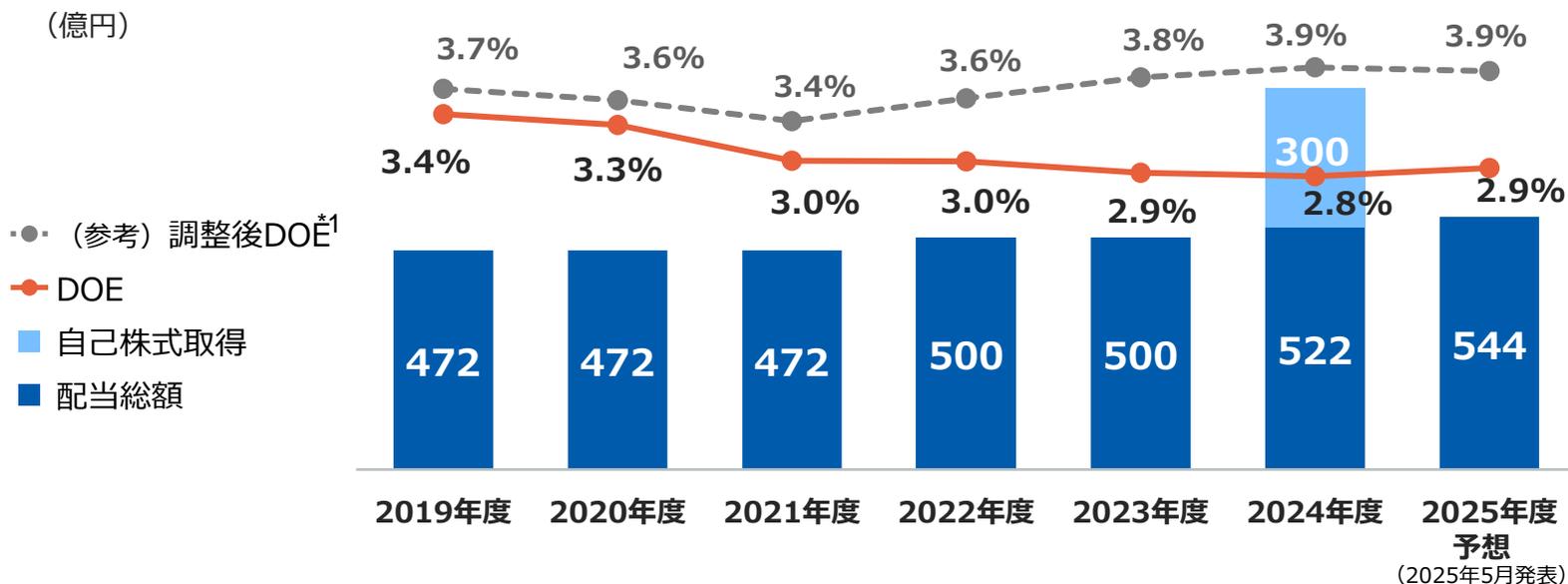
パフォーマンスケミカル事業

▲30億円

エッセンシャルケミカル事業

+18億円

2025年度の年間配当は、中計における以下の株主還元方針に従い、**2024年度比で2円増配となる40円。中間配当は20円を予想**（変更なし）



1株当たり配当金(円)	34	34	34	36	36	38	40
配当性向	45.4%	59.1%	29.1%	-	113.9%	38.8%	44.1%
自己資本	13,593	14,675	16,874	16,603	18,134	18,594	18,466
調整後自己資本 (株主資本) *2	13,028	13,359	14,594	13,175	13,119	13,668	14,374

株主還元方針

- 1 中期的なFCFの見通しから、株主還元の水準を判断する
- 2 **DOE3%を目安**とした、中長期的な累進配当を目指す
- 3 自己株式取得は資本構成適正化に加え、投資案件やキャッシュフロー、株価の状況等を総合的に勘案して検討・実施する

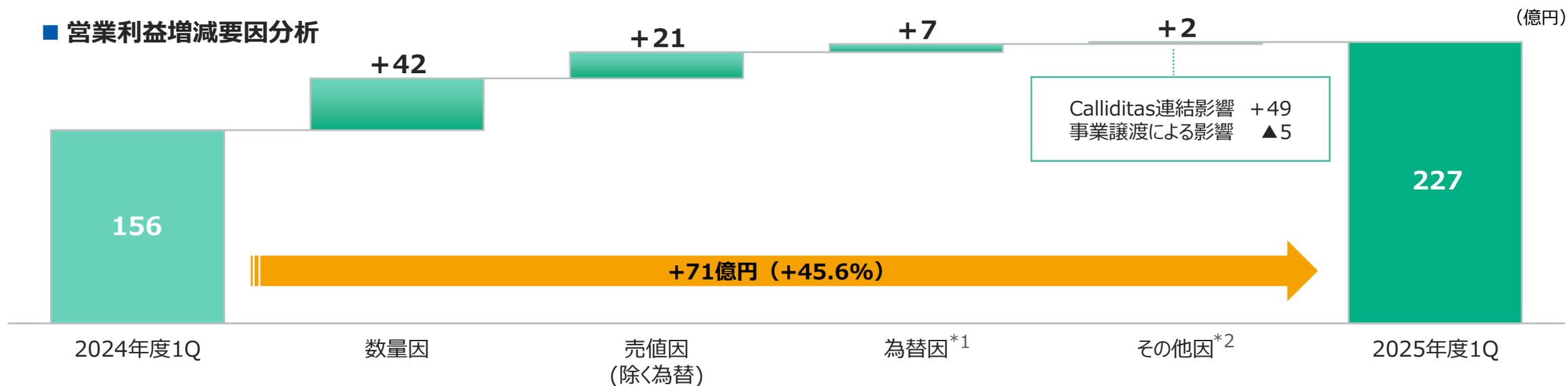
*1 調整後DOE = 配当総額 ÷ 調整後自己資本

*2 調整後自己資本 = 株主資本 = 自己資本 - その他の資本構成要素

3. セグメント別詳細

| 医薬・ライフサイエンス事業における主力製品の販売量増加による数量因や、クリティカルケア事業におけるAED等の販売価格上昇による売値因のプラスがあり、増益

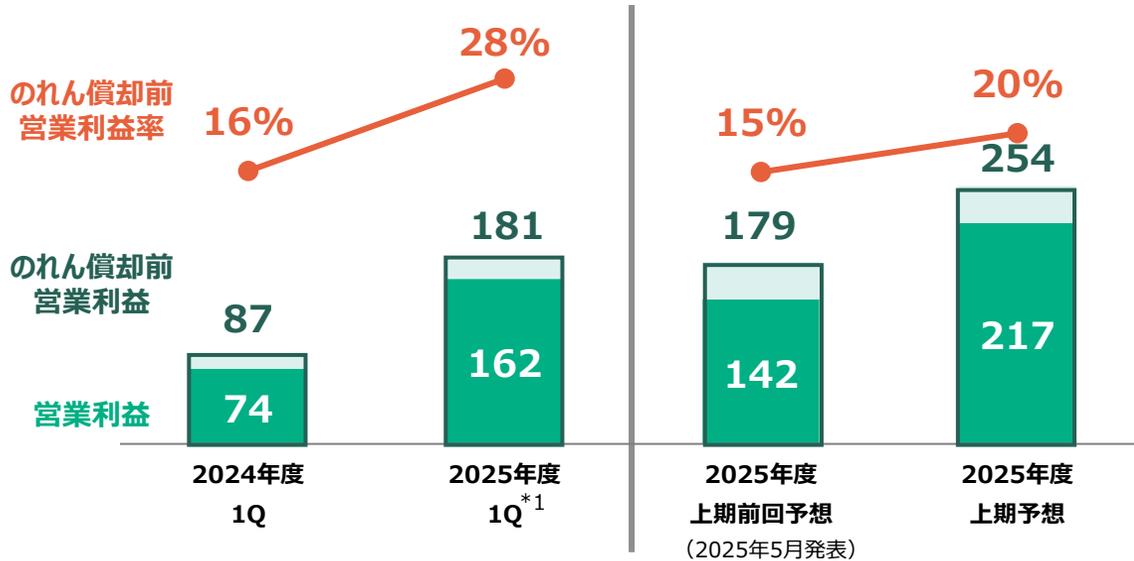
■ 営業利益増減要因分析



	売上高				営業利益							
	2024年度1Q	2025年度1Q	増減額	増減率	2024年度1Q	2025年度1Q	増減額	増減率	内訳			
									数量因	売値因 (除く為替)	為替因 ^{*1}	その他因 ^{*2}
ヘルスケアセグメント	1,458	1,551	94	+6.4%	156	227	71	+45.6%	42	21	7	2
医薬・ライフサイエンス事業	563	656	92	+16.4%	74	162	88	+119.4%	57	8	0	23
クリティカルケア事業	894	896	1	+0.1%	82	64	-17	-21.1%	-15	13	6	-22

*1 売値因に関連する為替因 *2 為替換算差、固定費差、ライセンス導入・導出等の一時収益・費用、新規連結等

■ 営業利益の推移（億円）



■ 営業利益の主な変動要因

2025年度 1Q vs 2024年度 1Q	<ul style="list-style-type: none"> ● 医薬：Envarsus XRを中心とした主力製剤の販売量の増加やCalliditasの新規連結影響等により、増益 ● ライフサイエンス：プラノバの販売量が増加したが、血液浄化事業の譲渡影響等により、横ばい
2025年度 上期予想 vs 2025年度 上期前回予想	<ul style="list-style-type: none"> ● 医薬：TarpeyoやEnvarsus XRを中心とした主力製剤の販売量の増加や新規導入費用等、販管費の下期への一部期ずれ等に伴い、上方修正 ● ライフサイエンス：プラノバの販売量増加等により、上方修正

現中計における取り組み

医薬

重点成長

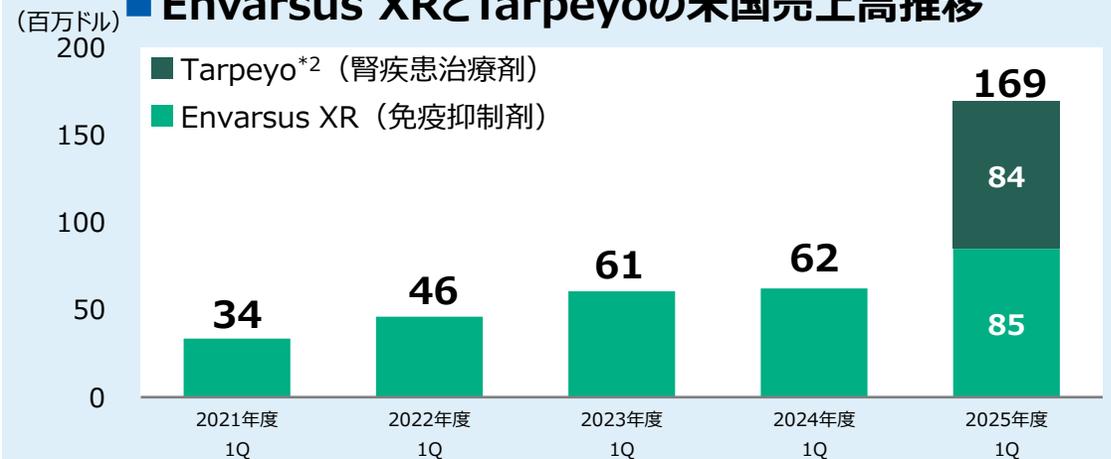
- Envarsus XR (Veloxis)、Tarpeyo (Calliditas)、国内主力製剤の利益成長
- 免疫・移植等の周辺疾患領域にフォーカスした、成長投資の継続（追加M&A、ライセンスイン）

ライフサイエンス

戦略的育成

- プラノバ（ウイルス除去フィルター）の着実な成長
- Bionova（CDMO事業）の受注拡大

■ Envarsus XRとTarpeyoの米国売上高推移



*2 新規連結に伴い、2024年10月より当社で売上を計上

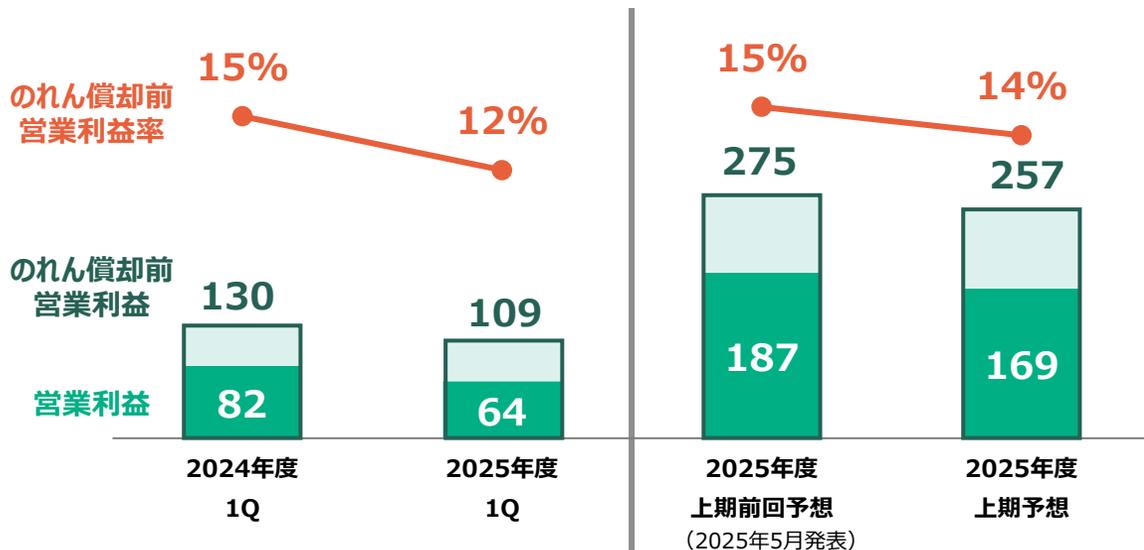
*1 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更している。詳細は36ページ参照

(売上高の対象地域、単位)	2024年度		2025年度	1Q 前年同期比	
	1Q	上期	1Q	増減額	増減率
<Veloxis>					
Envarsus XR (米国、百万ドル)	62	135	85	23	+36.4%
<Calliditas>					
Tarpeyo (米国、百万ドル)			84	84	-
<旭化成ファーマ>					
テリボン (国内、億円)	104	205	109	5	+4.4%
リクラスト (")	3	6	3	-0	-7.2%
ケブザラ (")	28	55	30	2	+5.3%
プラケニル (")	16	32	6	-11	-66.4%
リコモジュリン (")	17	35	15	-1	-6.6%
クレセンバ (")	6	16	15	8	+130.6%
エムパベリ (")	4	10	5	1	+15.1%

製品名	一般名	薬効・分類	適応症	剤形
Envarsus XR	タクロリムス徐放製剤	免疫抑制剤	腎移植	錠剤
Tarpeyo	ブデソニド放出遅延製剤	腎疾患治療剤	疾患進行のリスクがある原発性IgA腎症	カプセル剤
テリボン	テリパラチド酢酸塩	骨粗鬆症治療剤 (副甲状腺ホルモン：PTH)	骨折の危険性の高い骨粗鬆症	注射剤
リクラスト	ゾレドロン酸水和物	骨粗鬆症治療剤	骨粗鬆症	注射剤
ケブザラ	サリルマブ (遺伝子組換え)	関節リウマチ治療剤	既存治療で効果不十分な関節リウマチ	注射剤
プラケニル	ヒドロキシクロロキン硫酸塩	免疫調整剤	皮膚エリテマトーデス、全身性エリテマトーデス	錠剤
リコモジュリン	トロンボモデュリンアルファ (遺伝子組換え)	血液凝固阻止剤	DIC (汎発性血管内血液凝固症)	注射剤
クレセンバ	イサブコナゾニウム硫酸塩	深在性真菌症治療剤	アスペルギルス症、ムーコル症、クリプトコックス症	カプセル剤、注射剤
エムパベリ	ベグセタコプラン皮下注製剤	補体 (C3) 阻害剤	発作性夜間ヘモグロビン尿症	注射剤

	開発コード（一般名）	適応症	起源	開発	備考（地域他）	
国内	フェーズⅢ	TA799 (アブラグルチド)	短腸症候群	導入	他社	日本におけるフェーズⅠは 当社が実施
	フェーズⅢ	ART-123 (トロンボモデュリン アルファ (遺伝子組換え))	化学療法誘発性 末梢神経障害	自社	自社	効能追加 (日米共同フェーズⅠ完了)
	フェーズⅡ	AK1830	変形性関節症に伴う疼痛	導入	自社	
	フェーズⅡ		慢性腰痛症に伴う疼痛			
	フェーズⅠ	AK1910	自己免疫疾患	導入	自社	
海外	フェーズⅢ	ART-123 (トロンボモデュリン アルファ (遺伝子組換え))	凝固異常を伴う重症敗血症	自社	自社	米国・欧州他
	フェーズⅠ	ART-123 (トロンボモデュリン アルファ (遺伝子組換え))	化学療法誘発性 末梢神経障害	自社	自社	米国 (日米共同フェーズⅠ完了)
	フェーズⅠ	VEL-101	臓器移植	導入	自社	米国他
導出品	フェーズⅡ	LY3857210	慢性疼痛	共同開発	他社	導出先開発中 (日中販売権は当社が保持)

■ 営業利益の推移（億円）



■ 営業利益の主な変動要因

2025年度 1Q vs 2024年度 1Q	<ul style="list-style-type: none"> ● ACT：AED等の販売価格が上昇したが、製品構成差が悪化したことや販管費の増加等により、減益 ● CMS：新規患者数の増加の一方、円高影響により、前年同期並み ● 睡眠時無呼吸症診断デバイス：販売量の増加により、増益
2025年度 上期予想 vs 2025年度 上期前回予想	<ul style="list-style-type: none"> ● ACT：製品構成差の悪化や販管費の増加等により、下方修正 ● CMS：新規患者数の増加により、上方修正 ● 睡眠時無呼吸症診断デバイス：想定通り

現中計における取り組み

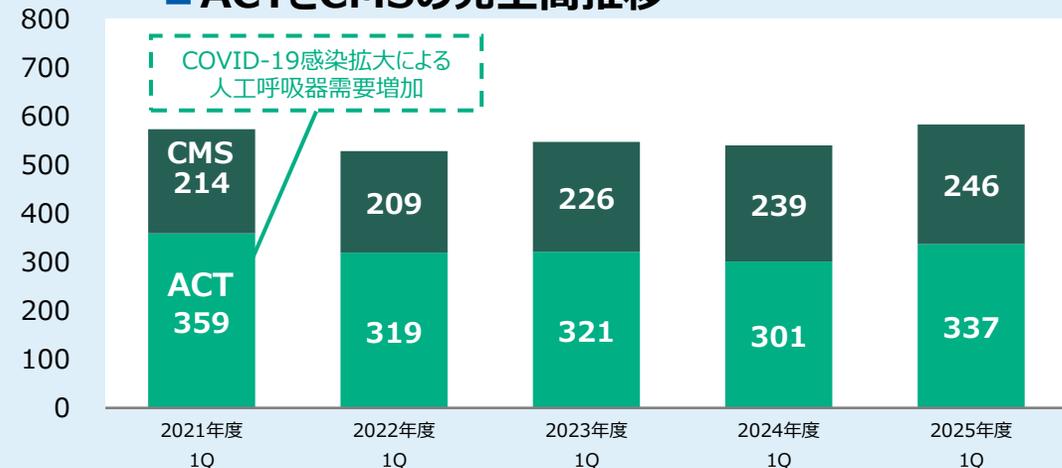
クリティカルケア

重点成長

- ACT*1における除細動器やAED等のシェア拡大による堅実な成長
- CMS*2における、LifeVestの潜在市場への浸透
- 睡眠時無呼吸症診断・治療デバイス（Itamar、Respicardia）等の新規機器の需要創出、および収益拡大

(百万ドル)

■ ACTとCMSの売上高推移*3



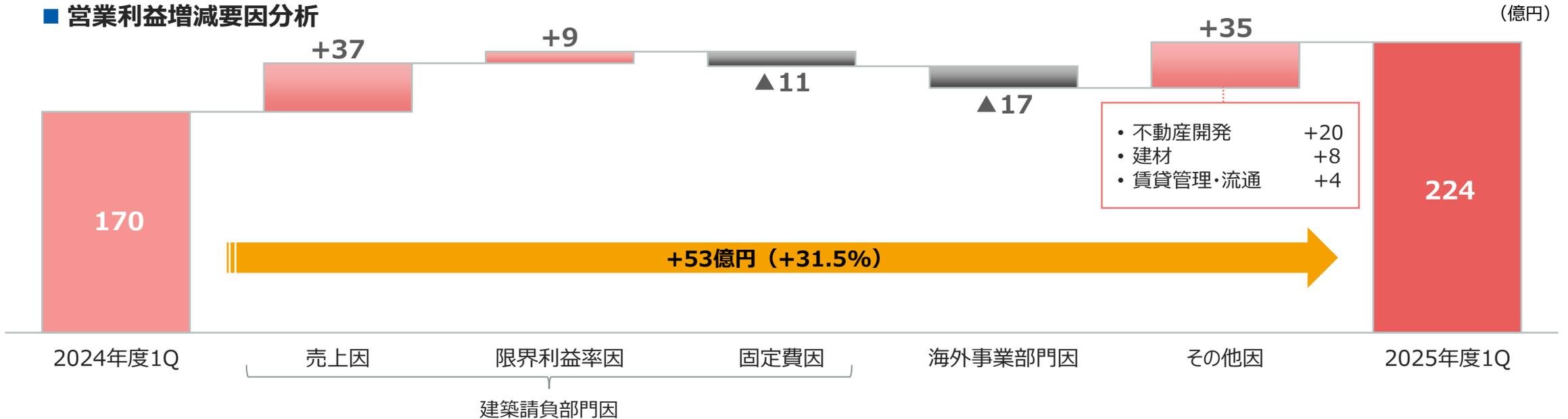
*1 Acute Care Technology：除細動器、AED、心肺蘇生関連、体温管理、ソフトウェアソリューション等

*2 Cardiac Management Solutions：着用型自動除細動器「LifeVest」、心疾患診断・管理等

*3 2023年度以前の実績については、参考情報として現在の事業区分に簡便的に組み替えて表示している

建築請負事業における平均単価上昇による売上因やコストダウンも加えた限界利益率因が向上したこと、不動産開発事業における分譲マンションの販売戸数の増加等により、増益

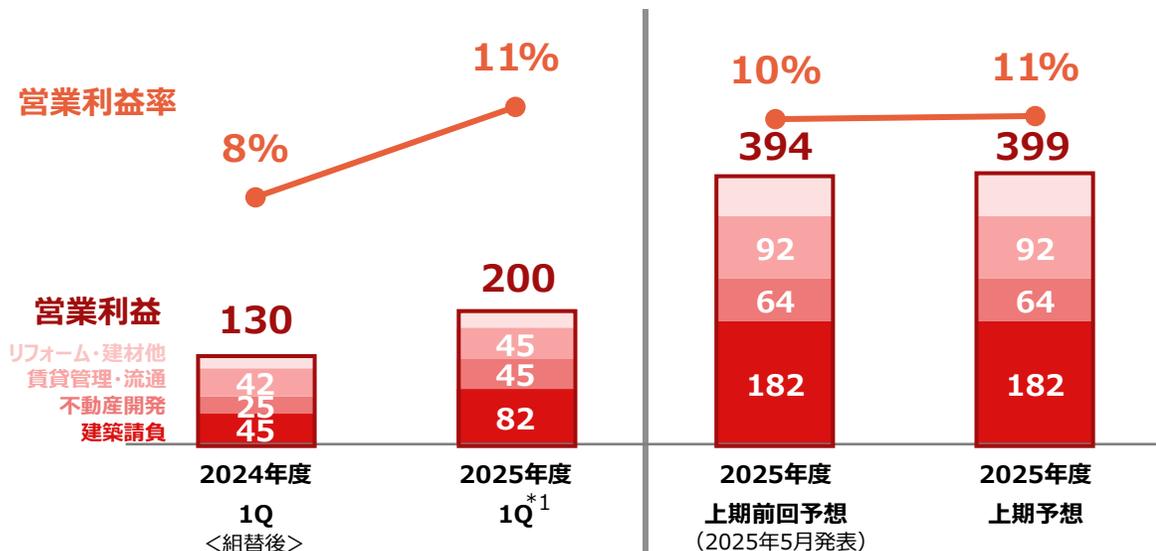
■ 営業利益増減要因分析



	売上高				営業利益									
	2024年度1Q	2025年度1Q	増減額	増減率	2024年度1Q	2025年度1Q	増減額	増減率	内訳					
									売上因	限界利益率因	固定費因	海外事業部門因	その他因	
住宅セグメント	2,365	2,589	224	+9.5%	170	224	53	+31.5%	37	9	-11	-17	35	
住宅事業	2,264	2,480	217	+9.6%	165	210	45	+27.5%	37	9	-11	-17	27 ^{*1}	
建材事業	101	109	7	+7.3%	5	14	8	+162.2%	-	-	-	-	8	

*1 不動産開発、リフォーム、賃貸管理・不動産流通、その他

■ 営業利益の推移（億円）



■ 営業利益の主な変動要因

2025年度 1Q vs 2024年度 1Q	<ul style="list-style-type: none"> ● 建築請負：物件の大型化・高付加価値化による平均単価の上昇やコストダウンによる限界利益率の改善により、増益 ● 不動産開発：分譲マンションの販売戸数の増加により、増益 ● 賃貸管理・不動産流通：管理戸数が堅調に増加し、増益
2025年度 上期予想 vs 2025年度 上期前予想	<ul style="list-style-type: none"> ● 建築請負：想定通り ● 不動産開発：想定通り ● 賃貸管理・不動産流通：想定通り

不動産開発

戦略的育成

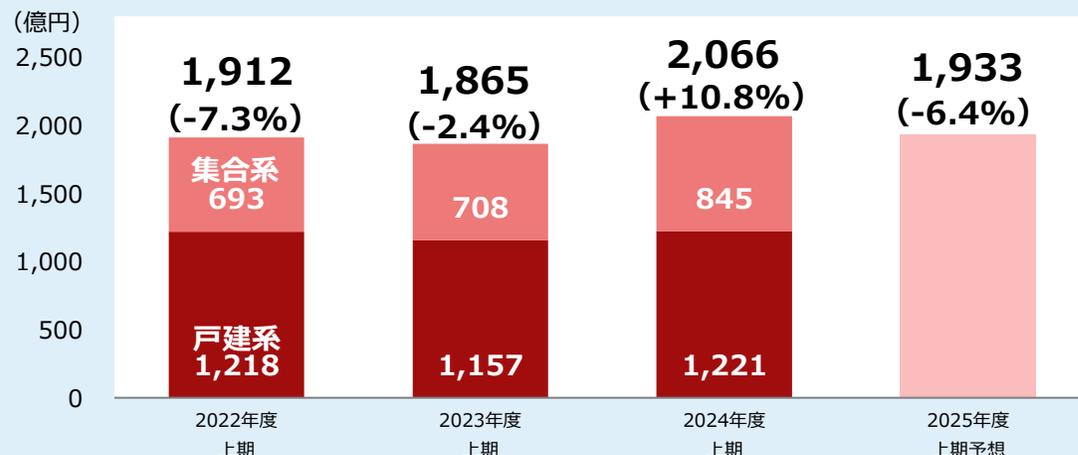
- 土地仕入れ力強化および土地を活用したビジネスの拡大

建築請負、賃貸管理・不動産流通、
リフォーム、建材

収益基盤維持・拡大

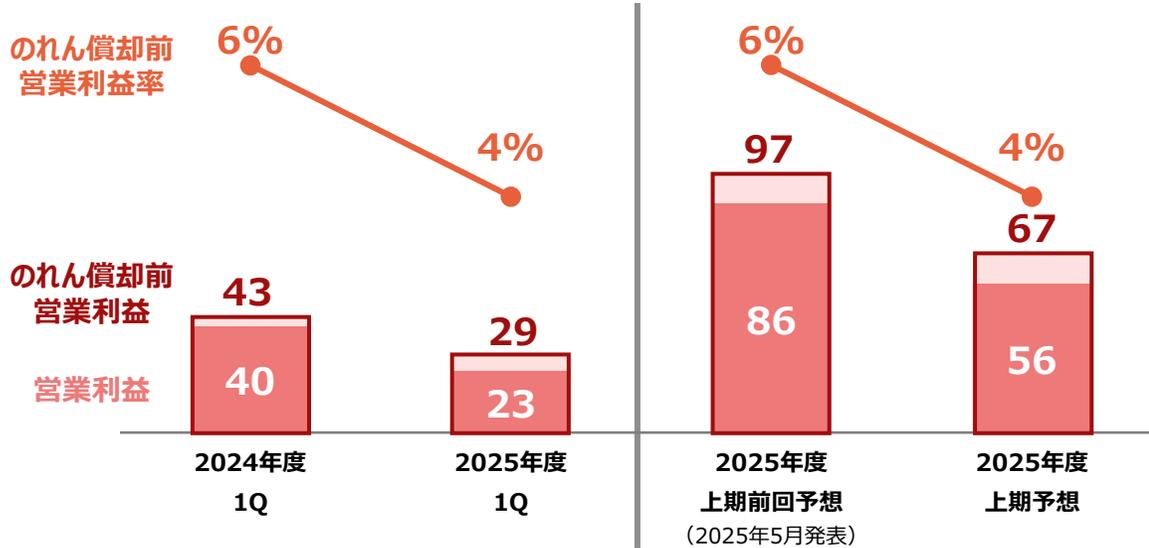
- 建築請負事業における、大型化・高付加価値化、集合住宅事業を拡大することによる、収益力の強化

■ 建築請負事業の受注高推移（カッコ内は前年同期比増減率）



*1 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更している。詳細は36ページ参照

■ 営業利益の推移（億円）



■ 営業利益の主な変動要因

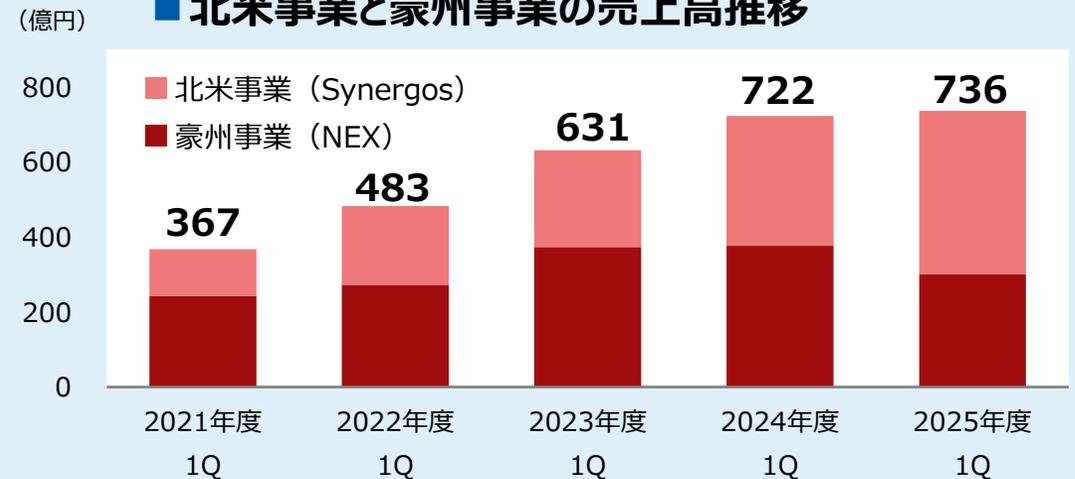
2025年度 1Q vs 2024年度 1Q	<ul style="list-style-type: none"> ● 北米：ODCの新規連結のプラス影響があったが、住宅需要の減少に伴う数量減少や価格対応により、減益 ● 豪州：住宅需要の減少に伴う数量減少により、減益
2025年度 上期予想 vs 2025年度 上期前回予想	<ul style="list-style-type: none"> ● 北米：住宅需要の回復が当初想定より遅れているため、下方修正 ● 豪州：想定通り

海外住宅

重点成長

- 北米事業における、サプライヤーを水平統合することによって建築工程の中核となる業種を統合し、工期短縮や高品質な住まいの提供を目指すビジネスモデル（Synergosモデル）の強化。エリア拡大における持続的成長
- 豪州事業における、更なるシェア拡大、および業務プロセス改善による収益性・資本効率の改善

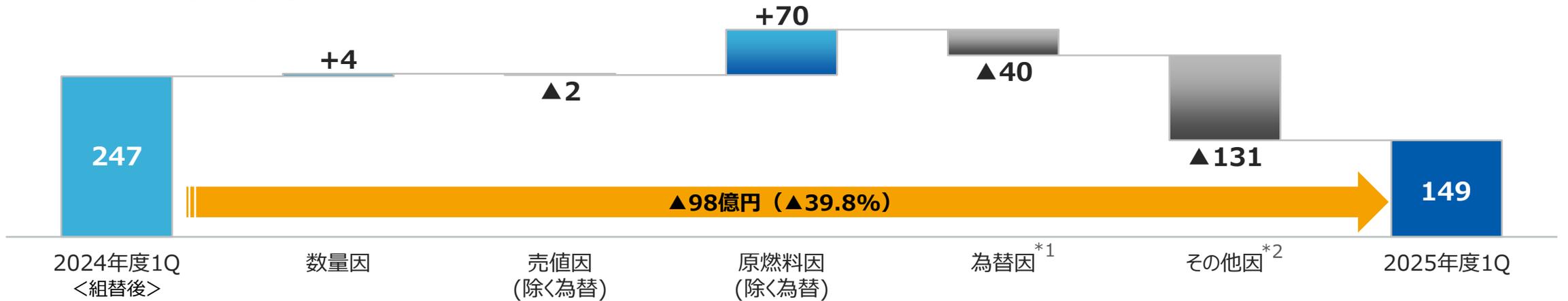
■ 北米事業と豪州事業の売上高推移



原燃料価格下落に伴う原燃料因のプラスはあるが、円高による為替因、エッセンシャルケミカル事業における定期修理や在庫受払差によるマイナス影響等のその他因のマイナスにより、減益

■ 営業利益増減要因分析

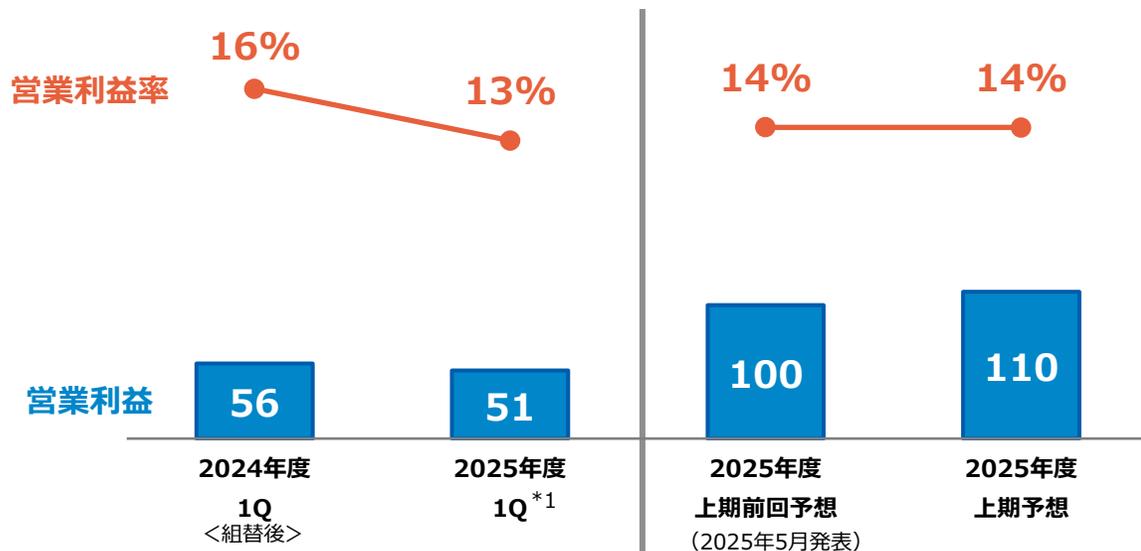
(億円)



	売上高				営業利益								
	2024年度1Q <組替後>	2025年度1Q	増減額	増減率	2024年度1Q <組替後>	2025年度1Q	増減額	増減率	内訳				
									数量因	売値因 (除く為替)	原燃料因 (除く為替)	為替因 ^{*1}	その他因 ^{*2}
マテリアルセグメント	3,505	3,166	-339	-9.7%	247	149	-98	-39.8%	4	-2	70	-40	-131
エレクトロニクス事業	357	381	24	+6.6%	56	51	-5	-9.2%	14	2	-4	-9	-9
カーインテリア事業	395	390	-5	-1.3%	30	21	-8	-28.4%	2	7	-2	-1	-14
エナジー & インフラ事業	370	300	-70	-18.9%	24	13	-11	-46.5%	1	5	-3	-9	-5
コンフォートライフ事業	637	608	-29	-4.5%	56	41	-16	-27.7%	-4	-0	2	-3	-10
パフォーマンスケミカル事業	647	557	-90	-13.8%	26	-7	-33	-	-3	-7	10	-12	-21
エッセンシャルケミカル事業	1,089	915	-174	-16.0%	59	15	-44	-75.2%	-6	-8	68	-6	-92 ^{*3}
マテリアル共通	9	14	5	+56.5%	-3	16	19	-	-	-	-2 ^{*3}	-	20 ^{*3}

*1 売値因・原燃料因に関連する為替因 *2 為替換算差、固定費差、在庫影響等 *3 エッセンシャルケミカル事業の営業利益の「その他因」には社内売値差が含まれているが、マテリアル全体としては「原燃料因」に含まれるものであるため、要因分析の補正として、相当する額をマテリアル共通の「原燃料因」と「その他因」にそれぞれプラスとマイナスを含めて表示している

■ 営業利益の推移（億円）



■ 営業利益の主な変動要因

2025年度 1Q vs 2024年度 1Q	➡	<ul style="list-style-type: none"> ● 電子材料：円高影響があったが、AI用途向けの関連製品が堅調に推移し、増益 ● 電子部品：カメラモジュール向け製品を中心に販売量を伸ばしたが、円高影響等により、減益
2025年度 上期予想 vs 2025年度 上期前回予想	↗	<ul style="list-style-type: none"> ● 電子材料：AI用途向けの関連製品の需要が当初想定以上に伸びており、上方修正 ● 電子部品：想定通り

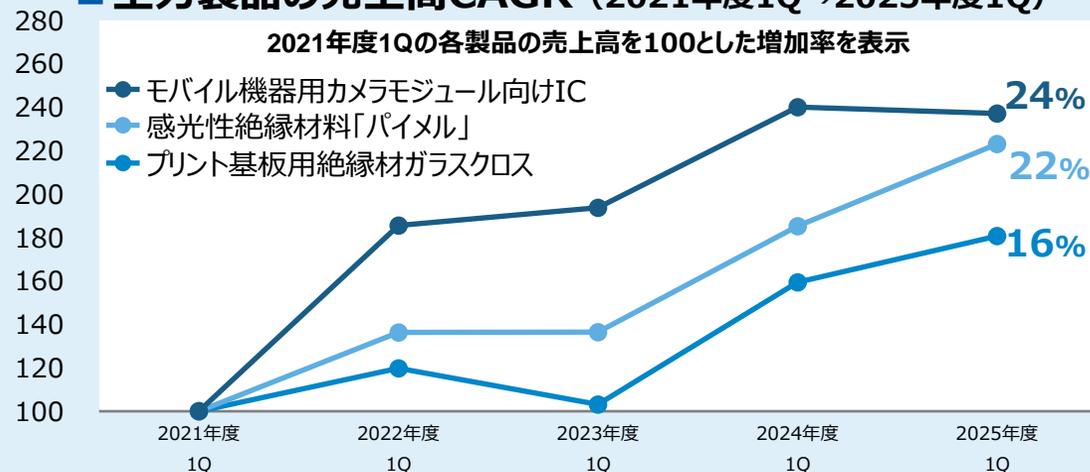
現中計における取り組み

エレクトロニクス

重点成長

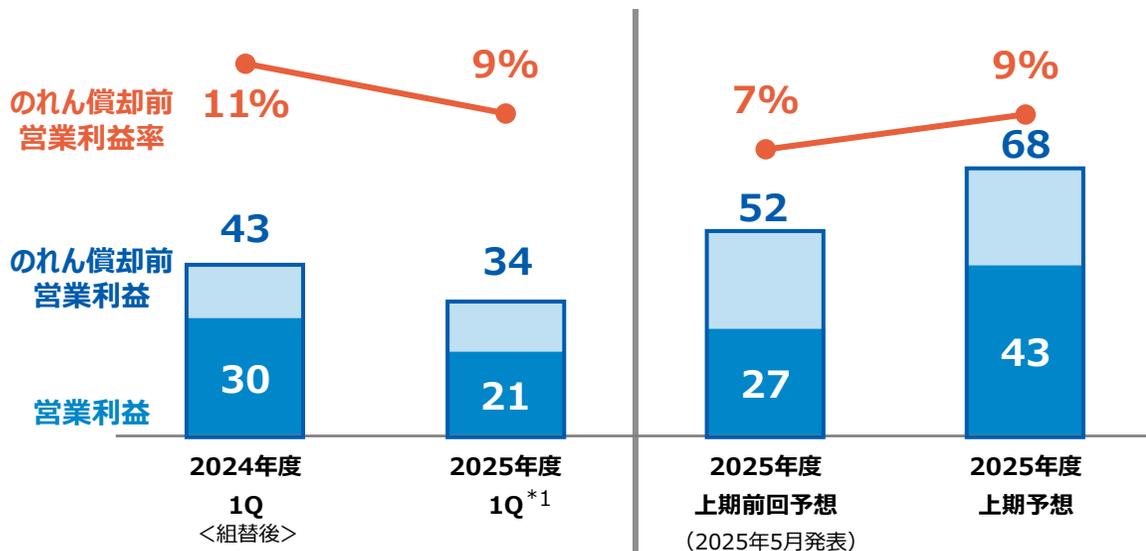
- 電子材料における、半導体チップ、基板・実装工程材料での実績をベースとした“先端半導体パッケージ市場”に最適な材料の提案
- 特に、パイメル（半導体保護膜／層間絶縁膜）は、拡大するAIサーバー向け等最先端半導体の旺盛な需要に合わせて、生産能力を増強
- 新規電子材料の開発および事業化の推進

■ 主力製品の売上高CAGR（2021年度1Q→2025年度1Q）

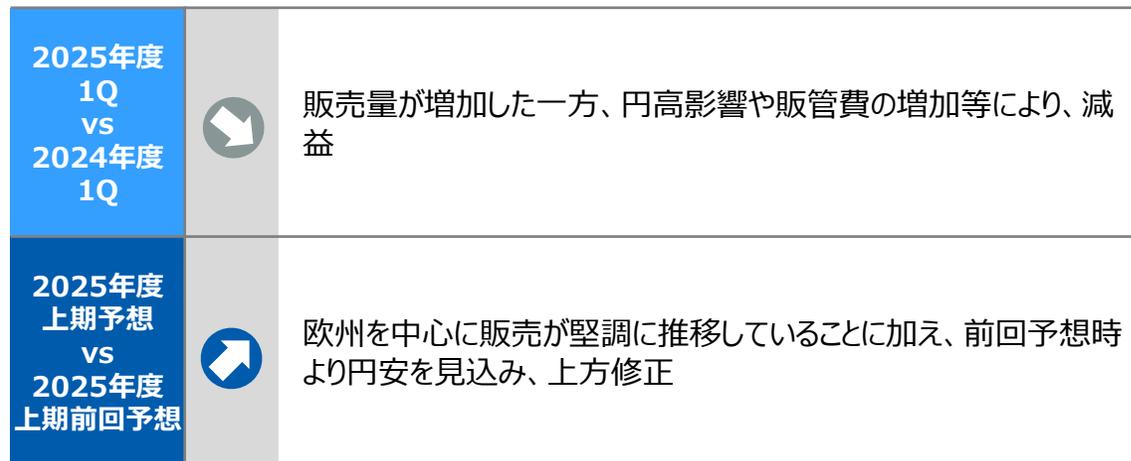


*1 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更している。詳細は36ページ参照

■ 営業利益の推移（億円）



■ 営業利益の主な変動要因

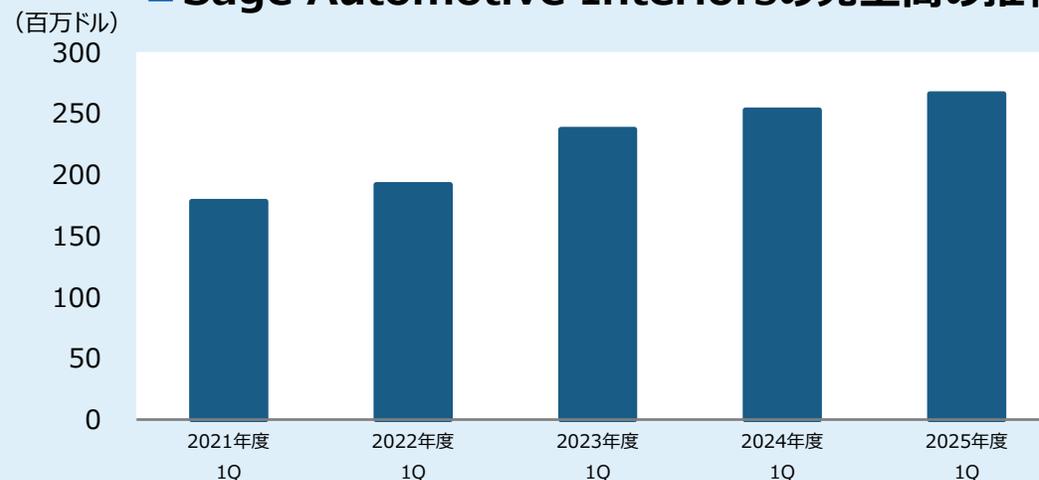


カーインテリア

収益基盤維持・拡大

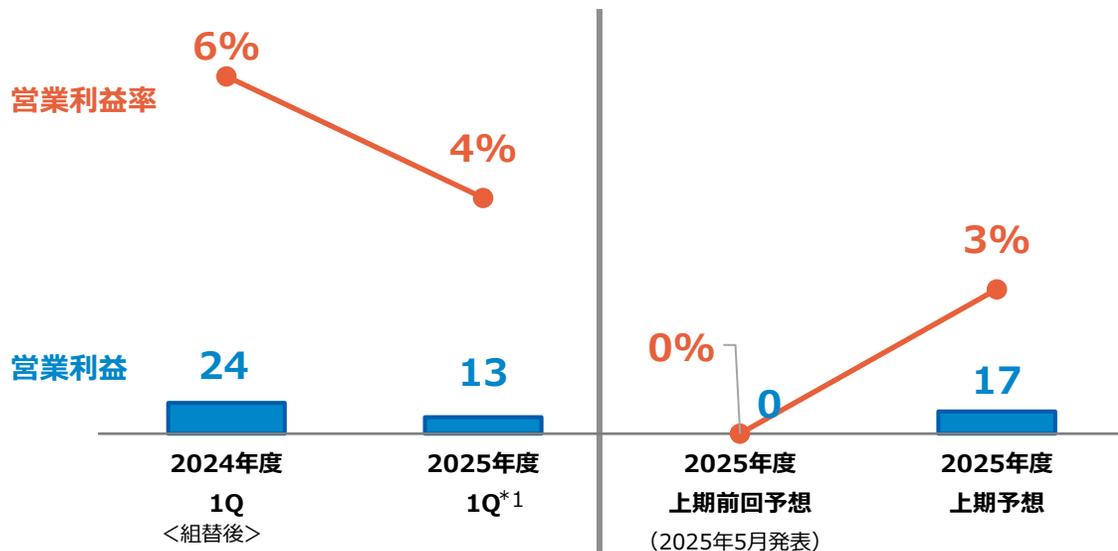
- 顧客ニーズに合わせた商品ラインナップと革新的なデザイン、先進の加飾・後加工技術を強みとしたソリューション型事業としての着実な利益成長
- 米国、欧州、日本、中国と地域ごとに適地生産体制を整備し、プラットフォーム構築を推進

■ Sage Automotive Interiorsの売上高の推移



*1 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更している。詳細は36ページ参照

■ 営業利益の推移（億円）



■ 営業利益の主な変動要因

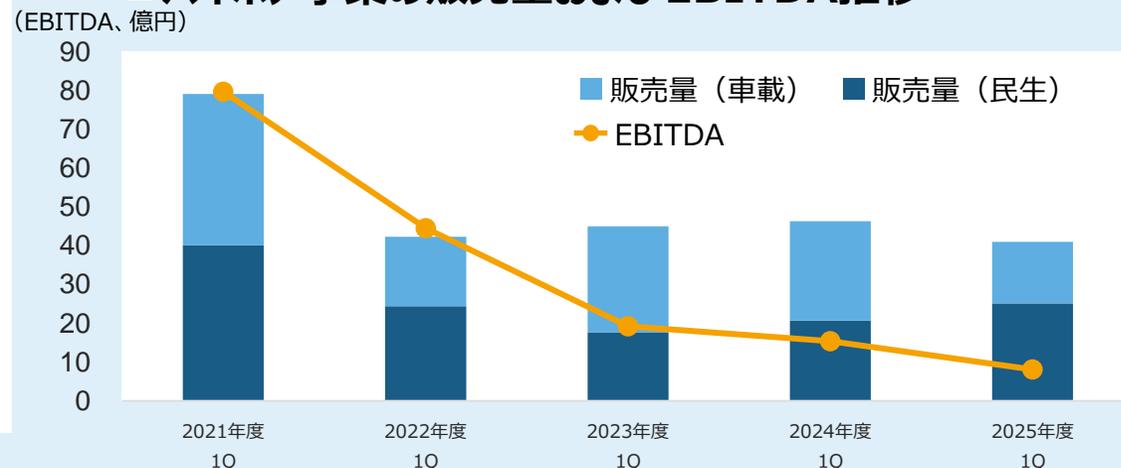
2025年度 1Q vs 2024年度 1Q	<ul style="list-style-type: none"> ● セパレータ：販売量は減少したが、ポリポア事業（LIB用乾式セパレータ、鉛蓄電池用セパレータ）において生産性向上やコストダウンの取り組み等により、増益 ● イオン交換膜：プラントの出荷が当期にはなかったこと等から、減益
2025年度 上期予想 vs 2025年度 上期前回予想	<ul style="list-style-type: none"> ● セパレータ：ハイポア事業は販売量の減少を見込むが、ポリポア事業において販売量の増加を見込むことに加え、コストダウンの取り組み等により、上方修正 ● イオン交換膜：想定通り

エナジー&インフラ

戦略的育成

- セパレータ事業における、ハイポア（LIB用湿式セパレータ）の需要回復に応じた収益改善。北米工場の稼働は2027年度下期より、本格的な収益貢献は2028年度より想定
- イオン交換膜法食塩電解事業の拡大に向けた生産能力増強、および長年培ってきた事業基盤をベースとしたソリューション型事業としての安定的な利益成長

■ ハイポア事業の販売量およびEBITDA推移



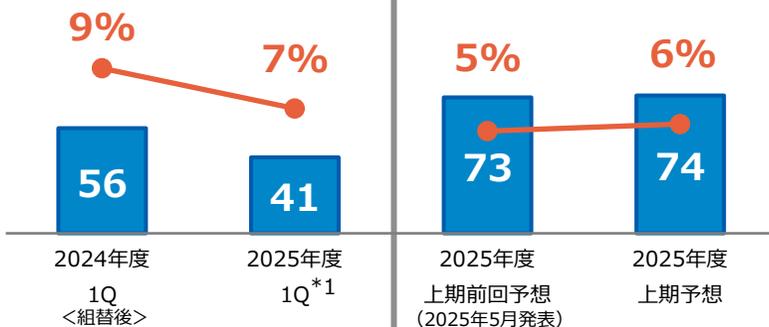
*1 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更している。詳細は36ページ参照

■ 営業利益の推移（億円）

■ 営業利益 ● 営業利益率

📈 収益基盤維持・拡大

コンフォートライフ

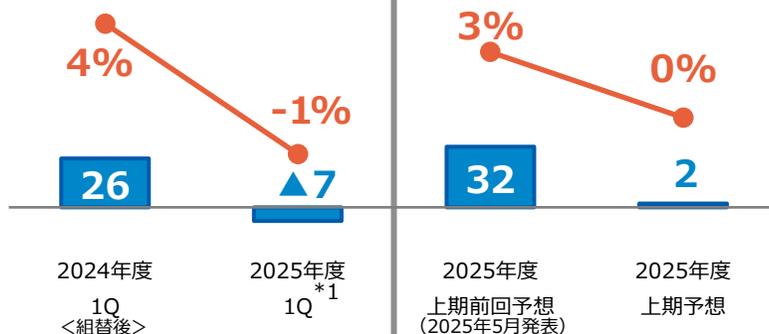


■ 営業利益の主な変動要因

2025年度 1Q vs 2024年度 1Q	📉	円高影響や繊維事業の販売量減少等により、減益
2025年度 上期予想 vs 2025年度 上期前回予想	📈	繊維事業の販売量が当初計画を下回るが、製品構成差の改善や固定費の減少により想定通り

⚙️ 収益維改善・事業モデル転換

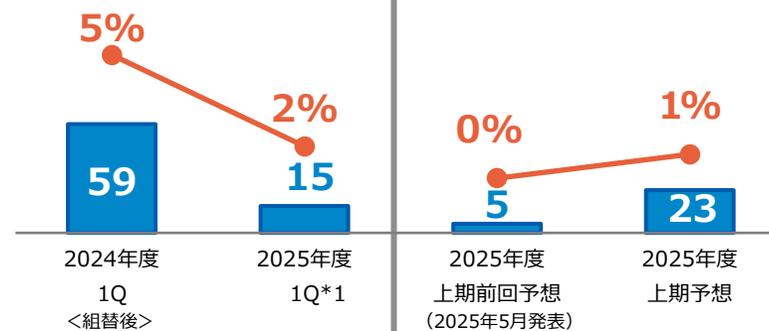
パフォーマンスケミカル



2025年度 1Q vs 2024年度 1Q	📉	販売量の減少や円高影響および交易条件の悪化、定期修理の影響等により、減益
2025年度 上期予想 vs 2025年度 上期前回予想	📉	想定を上回る市況下落による交易条件の悪化等により、下方修正

⚙️ 収益維改善・事業モデル転換

エッセンシャルケミカル



2025年度 1Q vs 2024年度 1Q	📉	定期修理や市況下落に伴う在庫受払差によるマイナス影響等により、減益
2025年度 上期予想 vs 2025年度 上期前回予想	📈	固定費の減少や在庫受払差によるプラス影響等により、上方修正

*1 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更している。詳細は36ページ参照

全社共通費の配賦比率変更影響

2025年度より全社共通費の配賦比率を変更したことに伴い、各セグメントおよびサブセグメントの営業利益において、前年同期比の減益要因となっている（全社の営業利益に影響はなし）

(億円)

	2024年度1Q 営業利益 〈組替後〉	2025年度1Q 営業利益	増減	うち 配賦基準変更影響	配賦基準変更影響 を除いた増減
ヘルスケアセグメント	156	227	71	-2	73
医薬・ライフサイエンス	74	162	88	-2	91
クリティカルケア	82	64	-17	-	-17
住宅セグメント	170	224	53	-4	57
住宅	165	210	45	-3	48
建材	5	14	8	-1	9
マテリアルセグメント	247	149	-98	-10	-89
エレクトロニクス	56	51	-5	-1	-4
カーインテリア	30	21	-8	-0	-8
エナジー & インフラ	24	13	-11	-2	-9
コンフォートライフ	56	41	-16	-2	-14
パフォーマンスケミカル	26	-7	-33	-1	-32
エッセンシャルケミカル	59	15	-44	-3	-41
マテリアル共通	-3	16	19	-1	20
その他	2	4	1	-	1
消去又は全社	-77	-66	11	16	-5
合計	499	537	38	-	38

売上高詳細

(億円)

			2024年度 上期 ＜組替後＞			2025年度 上期予想	1Q 前年同期比 増減率	上期 前年同期比 増減率	2025年度 上期前回予想 (2025年5月発表)
	1Q	2Q		1Q	2Q予想				
ヘルスケアセグメント	1,458	1,470	2,927	1,551	1,569	3,120	+6.4%	+6.6%	3,000
医薬・ライフサイエンス事業	563	572	1,135	656	584	1,240	+16.4%	+9.2%	1,160
医薬事業	322	340	662	502	458	960	+55.7%	+45.1%	920
ライフサイエンス事業	241	232	473	154	126	280	-36.1%	-40.8%	240
クリティカルケア事業	894	898	1,792	896	984	1,880	+0.1%	+4.9%	1,840
住宅セグメント	2,365	2,687	5,052	2,589	2,791	5,380	+9.5%	+6.5%	5,510
住宅事業	2,264	2,579	4,842	2,480	2,670	5,150	+9.6%	+6.4%	5,290
建築請負事業	911	1,030	1,940	1,025	1,095	2,120	+12.5%	+9.3%	2,120
不動産開発事業	106	230	336	140	110	250	+31.4%	-25.6%	250
賃貸管理・流通事業	390	418	808	439	471	910	+12.5%	+12.6%	920
リフォーム事業	126	154	280	133	177	310	+4.9%	+10.5%	310
海外住宅事業	722	742	1,464	736	849	1,585	+1.9%	+8.3%	1,725
その他	8	6	13	8	-33	-25	+5.8%	-	-35
建材事業	101	108	209	109	121	230	+7.3%	+9.8%	220
マテリアルセグメント	3,505	3,352	6,857	3,166	3,264	6,430	-9.7%	-6.2%	6,520
エレクトロニクス事業	357	368	725	381	389	770	+6.6%	+6.2%	740
カーインテリア事業	395	383	778	390	400	790	-1.3%	+1.6%	740
エナジー & インフラ事業	370	332	702	300	360	660	-18.9%	-6.0%	660
コンフォートライフ事業	637	661	1,298	608	652	1,260	-4.5%	-2.9%	1,330
パフォーマンスケミカル事業	647	617	1,264	557	533	1,090	-13.8%	-13.8%	1,130
エッセンシャルケミカル事業	1,089	981	2,070	915	915	1,830	-16.0%	-11.6%	1,890
マテリアル共通	9	11	20	14	16	30	+56.5%	+53.5%	30
その他	32	36	67	77	33	110	+144.2%	+63.8%	90
合計	7,359	7,544	14,903	7,383	7,657	15,040	+0.3%	+0.9%	15,120

営業利益詳細

(億円)

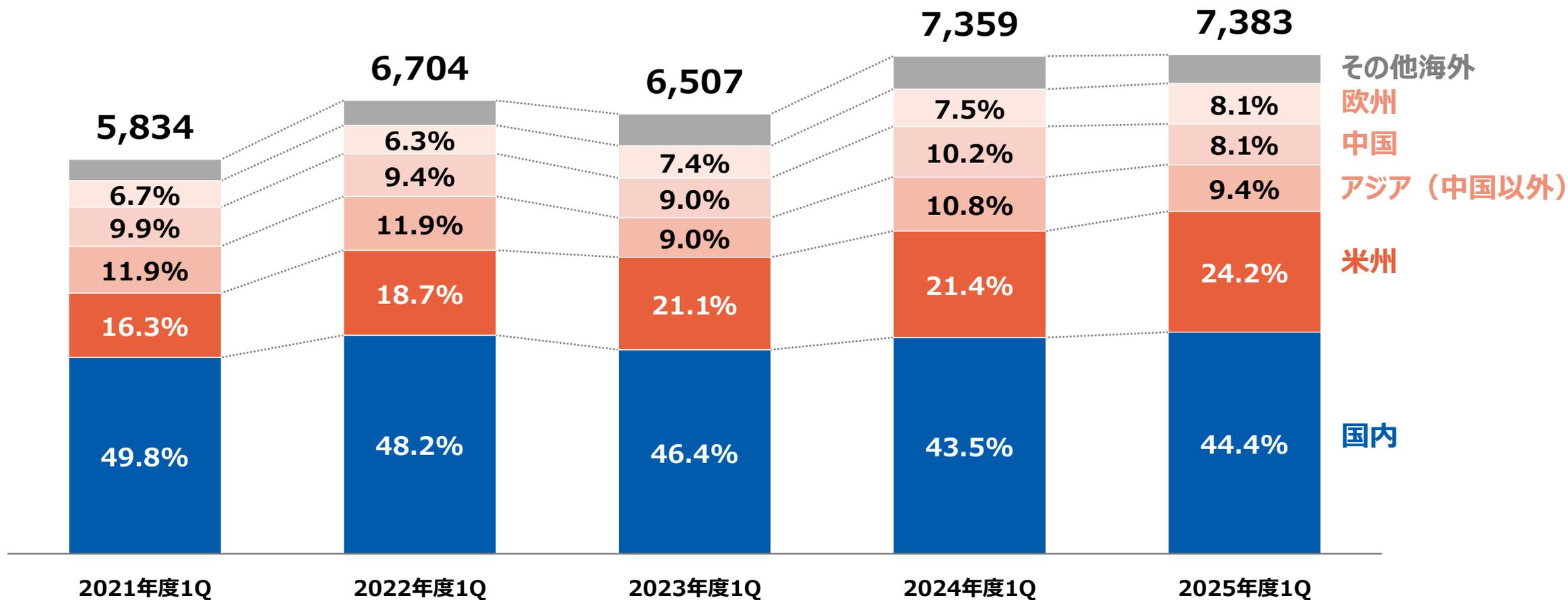
			2024年度 上期 <組替後>			2025年度*1 上期予想	1Q 前年同期比 増減率	上期 前年同期比 増減率	2025年度 上期前予想 (2025年5月発表)
	1Q	2Q		1Q	2Q予想				
ヘルスケアセグメント	156	176	332	227	159	386	+45.6%	+16.3%	329
医薬・ライフサイエンス事業	74	69	143	162	55	217	+119.4%	+52.1%	142
クリティカルケア事業	82	107	189	64	105	169	-21.1%	-10.6%	187
住宅セグメント	170	266	436	224	231	455	+31.5%	+4.3%	480
住宅事業	165	255	419	210	218	428	+27.5%	+2.1%	458
建築請負事業	45	107	152	82	100	182	+81.5%	+19.5%	182
不動産開発事業	25	42	68	45	19	64	+77.6%	-5.8%	64
賃貸管理・流通事業	42	41	83	45	46	92	+8.6%	+11.0%	92
リフォーム事業	12	22	34	10	24	34	-17.3%	+0.1%	34
海外住宅事業	40	40	80	23	33	56	-41.8%	-30.0%	86
その他	1	2	3	5	-4	1	+509.8%	-75.4%	1
建材事業	5	12	17	14	13	27	+162.2%	+58.2%	22
マテリアルセグメント	247	217	464	149	160	309	-39.8%	-33.5%	238
エレクトロニクス事業	56	62	118	51	59	110	-9.2%	-6.6%	100
カーインテリア事業	30	27	57	21	22	43	-28.4%	-24.2%	27
エナジー&インフラ事業	24	-9	15	13	4	17	-46.5%	+12.7%	0
コンフォートライフ事業	56	53	109	41	33	74	-27.7%	-32.2%	73
パフォーマンスケミカル事業	26	29	55	-7	9	2	-	-96.3%	32
エッセンシャルケミカル事業	59	67	126	15	8	23	-75.2%	-81.7%	5
マテリアル共通	-3	-12	-15	16	24	40	-	-	1
その他	2	6	8	4	10	14	+52.8%	+67.9%	13
消去又は全社	-77	-75	-152	-66	-48	-114	-	-	-110
合計	499	590	1,089	537	513	1,050	+7.6%	-3.6%	950

*1 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更している。詳細は36ページ参照

4. 参考資料

前年同期比では、円高影響により海外売上高は減少した一方、医薬事業等における米国の売上高拡大に伴い、米州の売上高比率が上昇

(億円)



(億円)

	減価償却費 ^{*1}				のれん償却費	
	2024年度1Q 〈組替後〉	うち、買収に係る 無形固定資産の償却費 ^{*2}	2025年度1Q	うち、買収に係る 無形固定資産の償却費 ^{*2}	2024年度1Q 〈組替後〉	2025年度1Q
ヘルスケアセグメント	123	71	148	90	62	63
医薬・ライフサイエンス	64	39	81	59	14	19
クリティカルケア	59	33	68	31	48	44
住宅セグメント	50	12	50	12	3	5
住宅	44	12	44	12	3	5
建材	6	-	6	-	-	-
マテリアルセグメント	157	10	159	9	14	13
エレクトロニクス	16	-	16	-	-	-
カーインテリア	27	10	27	9	13	12
エナジー&インフラ	42	0	39	-	0	0
コンフォートライフ	26	-	27	-	-	-
パフォーマンスケミカル	17	-	19	-	1	0
エッセシャルケミカル	15	-	16	-	-	-
マテリアル共通	14	-	13	-	-	-
その他	3	-	3	-	-	-
消去又は全社	31	-	33	-	-	-
合 計	363	93	392	111	80	81

*1 有形固定資産、無形固定資産（除く、のれん）の償却額を合算した金額で開示している

*2 買収時のPPAにおいて無形固定資産に配分された金額に係る償却額を開示している

経営指標の推移（2025年5月発表時点）

営業利益率

2024年度は「重点成長」事業を中心とした利益成長により前期比で改善。2025年度も引き続き利益成長を見込むが、為替の円高影響や石化市況の悪化により、横ばいの予想

ROIC

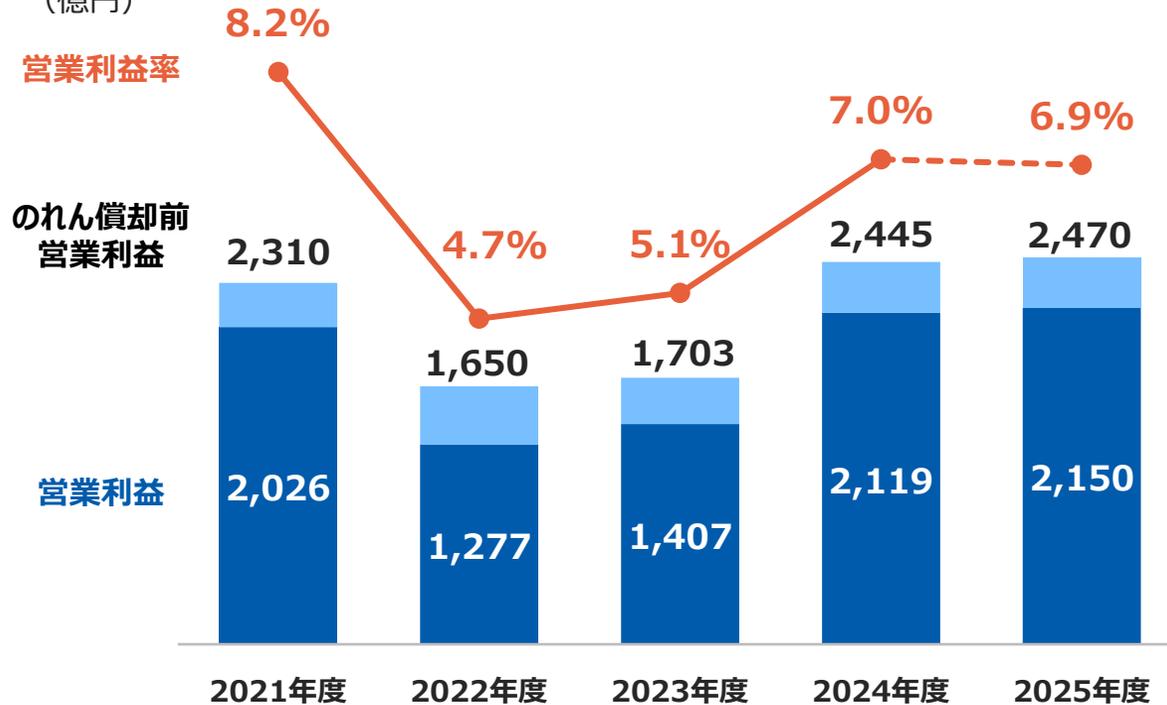
2024年度は法人税等の益を計上した前期比ではやや低下、2025年度もほぼ同水準を予想

ROE

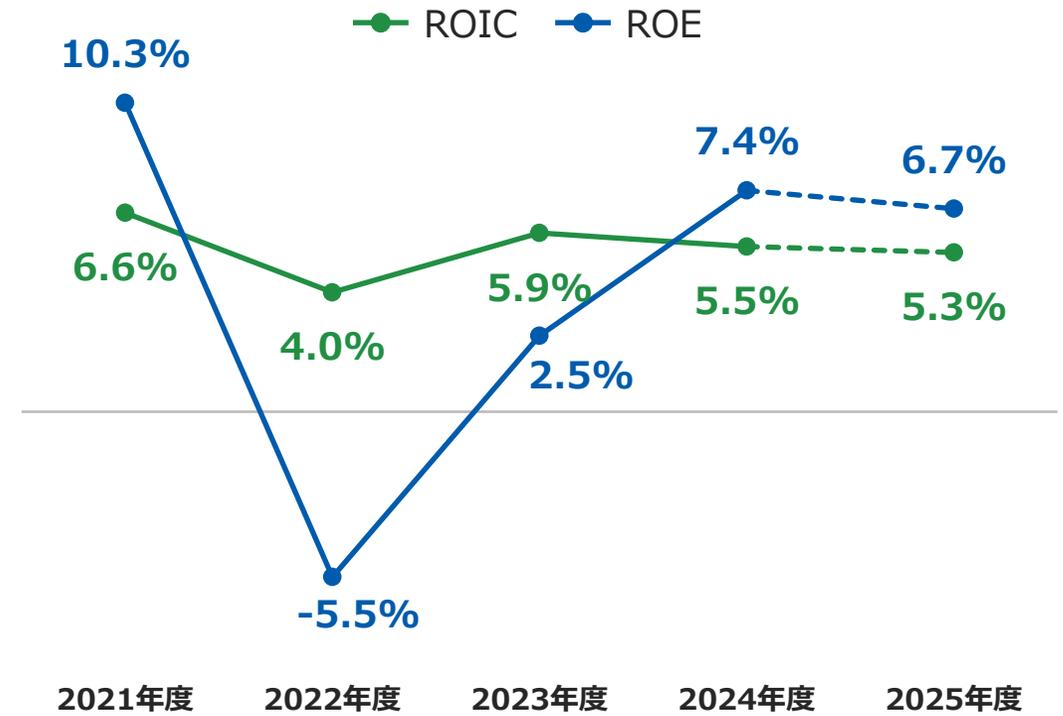
2024年度は当期純利益の大幅な改善に伴い前期比で改善。2025年度は株主還元の拡充や為替の円高推移により自己資本の減少を見込む一方、構造転換の進捗に伴う損失を見込むこと等により、低下する予想

■ 営業利益／営業利益率の推移

(億円)



■ ROIC^{*1}／ROEの推移



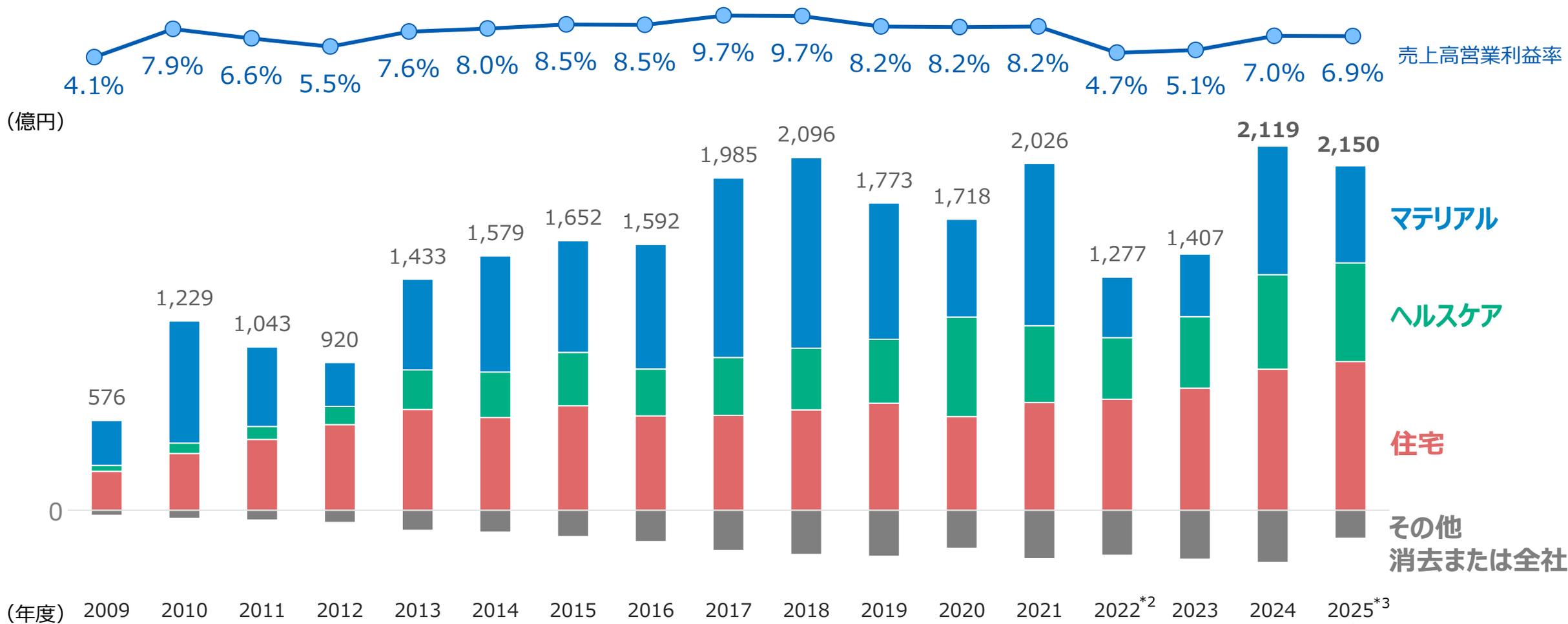
*1 ROIC = (営業利益 - 法人税等) ÷ 期中平均投下資本

予想
(2025年5月発表)

予想
(2025年5月発表)

営業利益の推移*1 (2025年5月発表時点)

「住宅」の安定的な利益成長や、「ヘルスケア」の利益の拡大により、利益構造はレジリエント化が進んでいる。「マテリアル」が経営環境の悪化を受けて2018年度の営業利益をピークに減少していたが、2022年度を底に改善。全社で2024年度に過去最高益を更新



*1 過年度の実績については、参考情報として現在の開示区分に簡便的に組み替えて表示している

*2 2022年10月31日付で買収を完了した米国Focus社の取得原価の配分が2023年度第1四半期に完了したことに伴い、2022年度の業績を遡って修正している

*3 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更している。詳細は36ページ参照

(2025年5月発表)

- セグメント別の営業利益は各セグメント内の事業間取引の消去を含んでいるため、サブセグメント別の営業利益を単純合算した数字とは一致しない

<お知らせ>

**2025年度第2四半期決算
決算発表予定日**

2025年11月5日（水）

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。



AsahiKASEI

Creating for Tomorrow

A decorative graphic consisting of several overlapping, wavy lines in shades of blue and red, curving from the bottom left towards the top right, framing the text.